

自  
年  
月  
日

復活

各国軍事関スル謀報雑纂

卷

外務省  
自

復活

各国軍事関スル謀報雑纂

単

C  
8  
0  
9  
X4

C-0026

0225

注 意 書

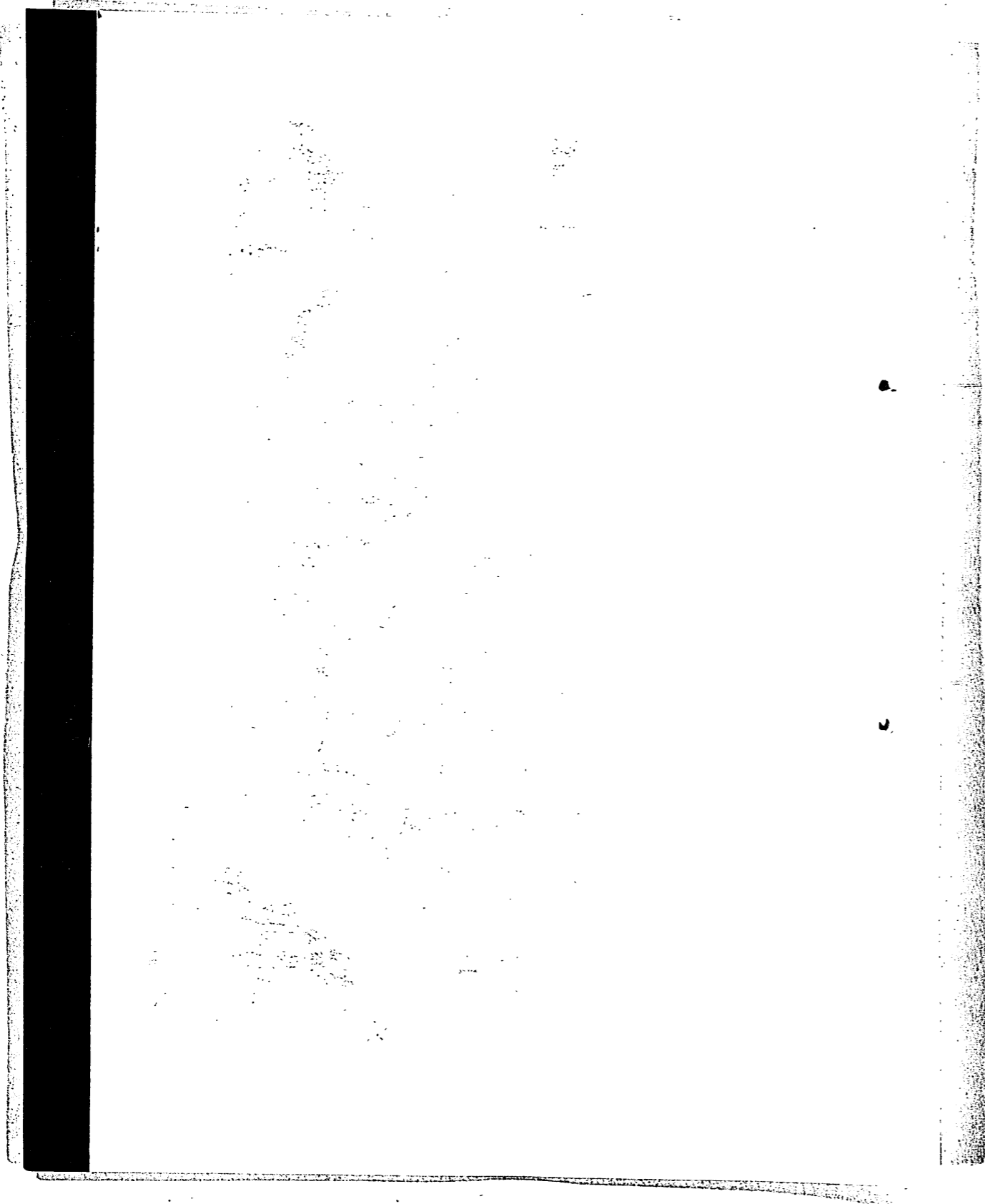
終戦時以前、編集されたこの関係の記録は戦火災又は終戦前  
の非常焼却措置で滅失し又はW、D、Cにより接收された。  
(記録焼失目録及びW、D、C接收記録目録参照)この分は残存未整理  
文書又は終戦後主管局誤より引継いたものを再編集したものである。

昭和二十五年四月十日 編集

S 3.8.0.0-1 01

C-0026

0226



C-0026

0227

注 意 書

終戦時以前、編集されたこの関係の記録は戦火災又は終戦前の非常焼却措置で滅失し又はW.D.C.により接收された。(記録焼失目録及びW、D、C.接收記録目録参照)この分は残存未整理文書又は終戦後主管局課より引継いたものを再編集したものである。

昭和二十五年四月十日 編集

S-3.8.0.0-1

C-0026

0228

極秘

寫

1 c 8.0.0 204

昭和十四年二月「ウオロシロフ」赤軍謀報部ハ「周保中」ニ連絡入  
「ソ」方ヲ指令セルモ「周」不在ノ爲幹部「李」他四名ヲ入「ソ」  
セシメタリ

昭和十四年舊正月末當時「ウオロシロフ」ニ緊留中ノ「ソ」隊一  
部明順「孫天寶」ノ兩名ハ其ノ教育者タル赤軍謀報部附大尉  
一連ノ警備ヲ手交セラレ當時虎林、寶清縣境ニ行動中ノ抗日聯  
軍第五軍長「周保中」ニ歸入「ソ」命令ヲ傳達シ若シ「周」不  
在ノ場合ハ第五軍代表者ヲ得同入「ソ」セヨトノ命令ヲ與ヘタリ

註(2)「周保中」ノ事ニル抗日第五軍ノ地盤ハ元來寧安縣附近ナリ  
シカ昭和十一年既ニ北上ヲ開始シ三江省依蘭縣ニ到リテ新路  
線ヲ開拓シ爾後、綽河、富錦、寶清ノ各縣ニ進出シ崩壊途上  
ニアリタル北滿地區ノ各共産隊、土匪ノ糾合統一ニ狂奔シテ  
リシモノナリ

(3)「李明順」ハ匿名ヲ「天德」ト稱シ主トシテ密山、寶清縣等  
ニ隣接運動セル土匪ニシテ昭和十二年夏季當時第三軍長ナリ

「趙尚志」ノ統合ヲ受テ抗日聯軍第三軍第四師第十三團長ヲ呼稱  
セシカ翌十三年ニ連リ軍務ノ討伐ニ遣ハレテ十一月一日「イマン」  
附近ヨリ脱境入「ソ」ニ同時入「ソ」セル部下三十一名ト共ニ「イ  
マン」ニ留置セラレシキ爾後隊者連任者ハ逐次抽出「ウオロシロフ」  
ニ移送セラレ各々別個ニ所要ノ教育ヲ受テアリタルモノナリ  
「孫天寶」ハ「李明順」ノ部下ニシテ「李」ト共ニ入「ソ」シ「ウ  
オロシロフ」ニ移送個別教育ヲ受ケタル事「李」ノ知シ  
「李」「孫」ノ二名ハ「孫」ノ指令者タル赤軍謀報部附某大尉ノ見  
送リヲ受ケ「ダラーフスキー」附近ヨリ脱境入滿シ約二週間ニシテ  
虎林、寶清兩縣境附近ニ第五軍幹部ヲ搜索シ其ノ代表者「李青」外  
四名ヲ得同入「ソ」セリ

當時「李」「孫」ノ會見セル抗日隊ノ幹部及兵力左ノ如シ  
王 放 明 第七軍政治主任  
李 放 明 第五軍參謀長  
李 青 第五軍某團政治主任(團長ハ李某)  
以上匪數約三十餘名ナリシキ當時尙西北十餘

C-0026

0229

行ニハ第五軍別動隊編成アリ  
第七軍補給部長(兼系)  
陸隊約六、七十名、餘系多ク女隊約三十名ヲ  
含メアリ

李青(當時二十七、八歳)ト共ニ入「ソ」セル匪賊名

吳景文(當時二十三、四歳) 熊喜昌(同二十五、六歳)

張副官(同二十八、九歳) 張交通(同三十歳位)

三昭和十四年九月「ウオ」軍赤軍隊總部ハ「榮世榮」ヲ入「ソ」セ

ノ「榮世榮」ハ當時抗日聯軍第五團團長ニシテ昭和十一年夏頃「開  
保中」ノ北上ヲシテ三江地區ニ潛入セル後ハ孤軍奮ツ軍安、穆稜兩  
縣ニ殘留奮闘ヲ續ケアリシモ治安肅正ノ進展ニ伴ヒテ進ハレテ依蘭  
縣、蓮花池、三道通、以嶺等牡丹江流域山中ニ遁入遁息シ昭和十  
三年ニ於テハ軍安縣ニ其ノ消息ヲ絶テ爾後ノ行跡不明ナリ

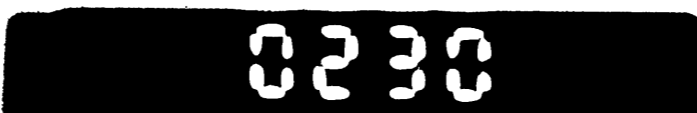
2 昭和十四年六月討伐ヲ逃避シテ依蘭縣ヨリ穆稜縣朔羊孫子方面ニ

移動シ暗闘中九月ニ亞リ「ソ」側ヨリ交通隊ニ長ト自稱スル李某  
(當時二十六、七歳)部下十五名ヲ引率シ亞リ入「ソ」ヲ惹惹セ  
ルヲ以テ「榮世榮」ハ第五軍副官「金桂高」「李可勝長」ヲ派シ  
該交通隊長ト共ニ入「ソ」セシメ其際「ウオ」セル「蘇克達東  
軍司令部知事」ヲ携行セシメヨリ

3 然ルニ「榮世榮」ハ「金桂高」等ノ入隊後討伐ヲ受テ「金」ノ歸還  
連絡ヲ待テヌ十月上旬入「ソ」セ「ウオ」セル「ウオ」ニ收容セラレ  
アリテ「金」ノ再入「ソ」時該地赤軍隊會ニ於テ對面セシメラレ

「ウオ」セル「ウオ」赤軍隊總部ハ昭和十四年七月被亂状態ニ陥レル抗  
日第二軍團ノ收容入「ソ」方ヲ企圖セルモ失敗セリ

ノ「ウオ」市赤軍隊總部ハ抗日聯軍第二團長「王德榮」ノ戦死ニ大  
イテ其ノ首腦ナル幹部連次討伐ニ於テ射殺セラレ匪隊ノ再編不  
能ニ陥リタルヲ以テ昭和十四年七月「李明順」「孫天寶」ヲ穆稜  
軍安縣ニ派遣シ對面ヲ收容入「ソ」セシメ以テ其ノ再編ヲ企圖セ



2 「李」「孫」ノ派遣ハ第二四日ニシテソノ第一回派遣時ト異ル點ハ  
 今回ハ「李」以下十三名ノ匪隊ヲ編成セ「孫」ヲ副官トシテ投入セ  
 ルト共ニ「ノモンハン」事變ニヨリ「ソ」ノ關戰ヲ考慮シ遠陸附近  
 ニ於ケル鐵道線破ヲ指令シテ  
 3 當時第二軍匪ノ消息杜絶セ第五軍ノ「周保中」「柴世榮」等其ノ首  
 腦者ハ概シテ北進進退シテソノ以テ七地不調シ「李」「孫」ヲ派  
 スルニ當リ「ウオロシコフ」陳報部ハ「遼東縣」縣署ニ駐ル土匪「九  
 標」ニ連絡シ其ノ援助ニヨリ第二軍ヲ搜索セ「ト命」併用「九標」  
 匪ノ懐柔入「ソ」ヲ命セヨリ  
 4 其ノ結果「李」ハ同年八月ニ至リ「九標」ニ連絡スルヲ得ルモ第  
 二軍ノ消息ハ不明ニシテ翌十五年六月附遼入「ソ」スル進退ニ連絡  
 ヲ達成シ得ヌ「九標」匪ノ誘致入「ソ」又暨併ニ歸シヨリ  
 5 匪隊ノ編成次ノ如シ  
 隊長 李明順(三〇首領)  
 8 3.8.0.0-1

副官 孫天寶(一九歳) 關 鳳(約三〇)  
 隊員 李廣榮(二八歳) 李有發(三四歳) 嚴實廷(三〇位)  
 嚴實貴(三四歳) 董實山(約四〇) 張清德(三〇歳)  
 常海廷(押 曹) 謝青林(三〇位) 趙 某(鮮系、四〇位)  
 蕭 廣(三四歳)  
 右ノ編成中副官「關鳳」及ヒ「董實山」以下六名ハ舊第六軍第五師  
 ノ隊員ニシテ隊員選抜ノキ「李明順」ハ前四ノ指令者大尉ヲ共ニ  
 「マンソフカ」滿鮮人收容所ニ送ケルルト「李」ノ部下ハ「  
 李廣榮」以下五名ノキニシテ他ハ所在不明ナリシ爲ニ得巴他匪隊ノ  
 隊員ヲ選抜編成セルモノナリ  
 同「ウオ」市赤軍隊報部ハ昭和十四年九月「李明順」匪ニ無難隊者ヲ  
 配屬セリ  
 前記「李明順」匪隊ノ對滿投入ニ際シ餘境後一箇月ヲ経タル時ハ  
 「李」「孫」ノ何レカ入「ソ」ニ連絡スヘント命セラレアリタルヲ  
 以テ「孫天寶」ハ「李」ノ命ヲ受テ部下三名ヲ帶同入滿「ルート」  
 8 3.8.0.0-1

ヲ進行シ八月上旬東寧縣王八脖子附近ヨリ入「ソ」セルカ「ウオ  
ロシロフ」滞在約一ヶ月ニシテ無線機ヲ携帶シ「李明順」匪ニ歸着  
スヘク命ヲラレ左ノ無線機者「交通員三ツ引卒シ九月末頃「ウオロシ  
フ」出發入滿セリ

于常和（當時二十四、五歳、無線機者、抗日第六軍第五師ノ班長

趙喜貴（當時三十一、二歳、第五軍第五師匪隊員ヨリシモノ）

侯占山（不詳）

劉福臣（不詳）

2 受ケケル指令

イ、穆稜縣ニ至リ「李明順」匪ヲ搜索シ合流シ得ルヲハ其ノ旨ヲ無線  
報告セヨ

又、「九標」匪位ニ第二軍匪ノ状況判明セハ其ノ状況ヲ報告セヨ

ハ、「李明順」ハ状況報告ノメ著正月前後入「ソ」セヨ

ニ、若シ「李」トノ連絡達成不能ノ場合ハ歸還セヨ、穆稜縣附近ニハ

目下秋季討伐實施セラレアルヲ以テ匪團ハ他地區ニ移動スル虞アリ

3 「孫」ハ綏境突破後二十餘日ニシテ「李明順」ヲ索出歸投セルカ「

李」ノ首ニヨレハ該匪ハ「孫」ノ離隊入「ソ」後聞モナク「九標」

匪ニ遭遇合流シ爾後「九標」匪ノ協力援助下ニ第二軍殘匪ノ消息探

査ヲ實施シツツ「九標」ノ復業工作ヲ實施シアリヨリ

當時「九標」匪ハ本隊ト副頭目「龍標」匪ノ二隊ニ分レ其ノ數約四

十餘名ヲ算セリ時恰モ秋季討伐ニ際會シ「柴世榮」麾下ノ第五軍系

匪九名ハ穆稜縣北部地區ニ於ケル討伐戰闘ニ於テ匪本隊ヨリ脱落シ

「九標」匪ニ寄食シアリテ「李」ノ率ニル隊員十四名ヲ合スレハ七

十名ヲ數ヘ就冬用食糧ノ調達ニ困難ヲ感シタルヲ以テ匪首會議開催

ノ結果「李」ノ離隊ハ「龍標」「合好」等ノ先導ノ下ニ寧安縣ニ潛

入總多スルコトニ決シ此旨詳細「ソ」側ニ打電報告セリ是レ「孫」

ノ歸隊後三日目ノコトニシテ無線連絡ノ翌日匪隊ハ移動セリ

其「李明順」ノ「九標」匪復業工作ノ失敗ト入「ソ」連絡及ヒ「李青」

ノ綏寧地區ヘノ派遣入滿

C-0026

0232



「李明順」ハ八月下旬「九標」ト遭遇合戦後寧安縣ニ移動スル迄凡ソ三ヶ月餘ノ間其ノ庇護ヲ受ケテ同属活動シアリシヲ其ノ間「ソ」側ノ指令ニ基キ「九標」ノ復業工作ヲ實施シ誘致入「ソ」ヲ金ヲナル事一再ナラス或ハ「ソ」側ヨリ携行シタル手榴彈數個ヲ提供シ或ハ國幣一千圓一一千五百圓ヲ供與シテ歡心ヲ購ヒツツ「ソ」聯ヲ謳歌セルモ共産色ヲ嫌惡スル「九標」ヲ嫌惡スルニ至ラス加之秋季討伐ノ徹底ニヨル合流多數匪ノ棲息ヲ許ササル理由モアリテ十一月初旬ノ匪首會議トナリ「李明順」カ寧安ニ移動スルコトナレハ前記ノ如ク「ソ」右ハ「九標」ト同盟目「龍標」ノ合流ノ決果之ヲ「李」ニ申出テ更ニ「李」「邵」「龍標」ノ三者會議ノ後寧安移動ヲ決定シタルモノナリ

2 「李明順」ハ十一月中旬寧安縣花臉溝、塘頭溝附近ニ到着山塞ヲ構築シ翌十五年四月討伐隊ニ追ハレテ後稜縣ニ遁入スル迄敵山中ニ於テ越冬セリ此越冬行ニ「李」ニ同行セルハ「龍標」「合好」等「九標」系匪十餘名「李明順」以下十五名、第五軍脫落匪九名計約三十

B. 3.8.0.0-1

10

餘名ニシテ糧食ノ調達ハ「合好」カ寧安縣ノ出身ニシテ該地區ニ親屬シアリシヲ以テ其ノ援助ニヨリ之ヲ入手セツツ第二軍ノ消息ヲ探求シ此ノ時機ヨリ彼「李」カ將來武裝トシテ活躍スヘキ基盤ヲ此地ニ構成セリ

無線機ハ部品ノ故障ニヨリ使用不可能トナリ種稜縣ニ運送シテ寧安ニ移動セリ

二月下旬「李明順」ハ「于常和」「趙喜貴」ノ兩名ヲ帶同シ連絡ノタメ出役入「ソ」ト四月中旬踏遊セルカ「ソ」側ハ其ノ踪跡ヲ探知セリ無線機ノ部品ヲ更新補充シ新ニ無線機「李風廷」及ヒ機務者「沙吉盛」(或ハ沙日盛)ト共ニ「李」ニ附隨入黨セシメヨリ

「莊」昭和十六年捕留セル「沙日盛」ノ供述ニヨレハ此時ヲ第一回トシ爾後約七回乾電池其他ノ部品ヲ寧安縣據點ニ送達シアリ

3 「ソ」側カ今因「李」ニ附與セル指令ハ「李」隨下ノ匪隊ハ寧安縣下ニ踏遊シ寧安附近ノ情報蒐集工作ヲ繼續シ情報轉機ノ充實アリタル時ハ無線報告ヲ爲スト共ニ連絡員ヲ派遣報告スヘントアリ即チ抗

B. 3.8.0.0-1

日聯軍第二軍団ノ搜索ハ一應打切リ「李明順」ヲ一隊報單位トシテ行動セシムル事ニ決シタルコト略々實ナリ  
「李明順」ハ入滿ニ際シ東寧縣老黑山北側ニ於テ討伐隊ニ追及セラレアル「李青」以下第五軍系匪十餘名ニ遭遇シ其ノ依頼ヲ受ケテ寧安縣ノ據點ニ案内シ前年ヨリ雜居シアリタル第五軍団ト合流セシメタリ

「註」「李青」ノ綏寧地區ニ出現セル情報ハ之ヲ以テ嚆矢ト爲ス  
六「李明順」匪ノ内訌ト其匪隊ノ解體ニ伴フ「李」及「孫」ノ小部隊行動ヘノ轉換

「李青」ハ「紫世榮」ノ第五軍長昇格ト同時ニ第五軍政治委員ニ昇進シアリテ「李明順」ト共ニ寧安東方山中ノ匪寨ニ到着スルヤ「李」ノ匪隊ト合流中ノ第五軍系匪九名ノ中女匪「申立雲」カ「李明順」ノ副官「邵天寶」ト色情關係アリタル旨「李」ヨリ聞知シ直ニ「申」ヲ射殺シテ共産軍ノ軍紀嚴肅ヲ計レリ  
「李青」ハ滞在約半ヶ月ニシテ全應下匪ヲ率ヒ東寧縣方面ニ移動

「李」ノ副官「邵天寶」カ女犯ヲ犯セルハ二月下旬「李」ノ入「ソ」以前ノ出来事ニシテ「李」ハ「孫」ノ副官ヲ僱用シ隊員「國風」ヲ副官ニ登用シ留守ヲ託シタリシカ四月中旬「李」ノ副官「國風」トノ間ニ對立ヲ生シタルヲ以テ「李」ハ「國風」ヲ射殺セリ  
「國風」ニ復活セシメタリ然ルニ從來ヨリ「李明順」ノ決意ト對策心ノ爲内心不滿ヲ抱キアリシ隊員ハ之ヲ機會ニ一齊ニ不平ヲ表示シ昨秋移動以來匪團ノ食糧調達ニ奔走援助セル「合好」モ「李」ニ反對シ部内紛糾セルヲ以テ「李」ハ入「ソ」ヲ決意シ五月中旬東寧縣方面ニ向ケ出發セリ

「註」「邵天寶」ハ「國風」ヲ射殺シ供進シアルモ「國」ハ昭和十五年五月買傷シテ某機關ニ歸順シタル後同年秋病死セリ  
寧安縣ヨリ移動後十餘日ニシテ東寧縣寒河江ニ到着セル「李」ハ匪隊ヲ同地ニ待機セシメ自身ハ先發シテ上記ノ理由ニヨル全匪入「ソ」ノ可否ヲ指令者ニ質スヘク部下二名ヲ引率入「ソ」セルモ「李」

ハ其ノ後何等ノ連絡ヲ入「ソ」後約二十日ニシテ「柴世榮」来  
リ「ソ」領ノ命令ヲ受ケ来レリトテ「邵天寶」ニ入「ソ」ヲ命ジ殘  
餘ノ部下ハ「柴」ノ部下ニ編入セリ

タ入「ソ」後「ウオロコフ」ニ送附セラレタル「李明順」ハ爾後匪  
團ノ統率ヲ繼免セラレ爾後小部隊ノ統率者トシテ一名乃至二名ヲ隨  
ヘテ武裝行爲ヲ爲スヘキ命ヲ受ケ同年九月十七日「ウオ」市出發無  
難險者「趙青山」ヲ帶同寧安縣ニ潛行シ昨年來彼ノ構成セル地盤ニ

單獨無難險者（據 點）ヲ設置セリ  
斯クテ「沙日盛」ハ該據點ニ對シ翌昭和十六年春平定花電池等附近  
品ヲ數回輸送セタルコト前述ノ如ク又某隊者ハ「李明順」其他二名  
ト共ニ昭和十六年四月及六月ノ二回ニ亘リ寧安縣花臉溝附近ニ電池  
ヲ輸送セシメラレタルコトアルモ共ニ連絡不能ニ終リ該隊者ノ逮捕  
セラレタルコト判明スルニ及ヒ他ニ轉用セラレタリ

「註」一無難險者「趙青山」ハ昭和十五年寧安縣ニ於テ抑留セラレ  
某機關ニ於テ逆用中昭和十六年某月牡丹江ニ於テ逃亡セリ

前記ノ如ク武裝三、三名ヲ單位トシテ行動セシムルモノヲ  
「ソ」側ニ於テハ小部隊ト呼ビ十名乃至二十名ヲ以テ編成  
シタル匪隊ヲ大部隊ト呼稱シタルモ特殊ノ場合ヲ除キ隊  
ヲ主目的トシアルモノト後述ノ資料ニヨリ概テ確實ナリ

5 「奉」ハ「趙青山」ノ抑留判明後昭和十六年九月、十一月ノ二回東  
寧縣某地區ニ派遣セラレタルモ再轉シテ寧安ニ派遣セラレタルコトト  
ナリ昭和十七年ヨリ昨年秋季迄第五軍某團出身「趙長武」ト二名ニテ  
出入シ本年ヨリハ「葉某」「趙」ト交替シ行動シタリ

6 「邵天寶」ハ昭和十四年七月「李明順」ノ副官トシテ遼東省ニ派遣セ  
ラレ遼東附近ニ遊蕩者數名ヲ獲得セルヲ利用シ該地區ニ據點ヲ設置  
シテ情報ヲ蒐集スヘキ命ヲ受ケ昭和十六年三月末ヨリ本年六月遼東  
縣ニ於テ抑留セラレタル迄三年餘ノ間十二回ニ亘リ遼東偵察ヲ主目標  
トスル「小部隊」行動隊者トナリ同行者一名乃至二名ヲ率ヒテ執拗  
ナル諜報工作ヲ實施セシメラレタリ

「ウオ」コトヲ「赤軍諜報部」「柴世榮」「李育」ノ連絡状況及其ノ

3 第二回連絡入「ソ」

「季青」ハ右物品ヲ匿除員約四十名ニ分配シ數日後本隊者ニ對シテ部隊ハ津後縣馬橋河附近ニ移動ス汝及「劉錫剛」「李貴選」ノ三名ハ再ヒ此ノ書信ヲ持参入「ソ」シ兵器、被服、資金等ヲ受領シ大寒河(東軍縣)方面ニテ吾等ヲ搜索セヨト命セラレ第一回ト同一経路ニテ入「ソ」シ前回ト同一指令者ヨリ約半ヶ月後左記物品ヲ受領ス

3.8.0.0-1

- 三八式小銃 七挺
- 「モーゼル」一挺準銃 三挺
- 彈 藥 約一萬發

(輕機及準銃彈合計一、五〇〇發)

ヲ受領シ往路ヲ逆行シテ「季青」ニ之ヲ手交セリ

第一回連絡入「ソ」時ノ同行者其ノ物

- 陳德山 黃海水 姜青山 李貴選 (以上往復路共同行)
- 李 某 張 某 陳 某 氏名不詳 (以上復路ノミ同行)

經津地區ニ於テ實施セル隱蔽工作ノ一例

ノ「ウオロシロフ」赤軍諜報部系隊者「趙」某ハ昭和十五年七月東寧縣老黑山北方附近ニ於テ抗日第五軍第三連長「陳德山」ノ職務ヲ受ケ授任セルモノナルヲ數日ニシテ寧安縣方面ヨリ移動シ來レル第五軍政治委員「季青」ノ率ユル匪團(約二十名)ニ合流シ匪團數匪團ノ交通員ニ登用セラレ「ウオロシロフ」赤軍諜報部將校宛「季青」ノ書信ヲ送附セシヨリ同年十二月匪隊ト共ニ入「ソ」スル迄五日ニ亙リ書信ヲ送附シ「ソ」側ヨリ武器彈藥、被服、資金等ヲ受領匪隊ニ輸送セリ

2 第一回入「ソ」連絡時ノ狀況

上「サルバカン」經由「ウオロシロフ」ニ至リ彼本隊者ノ操縱者トナレル滿洲塔斯ナル某大尉ト對面「季青」ヨリノ書信ヲ手交シタル後

日軍冬服上下 十八着

「ソ」式輕機 一挺

3.8.0.0-1

滿洲國幣

二、五〇〇圓

準銃彈(モーゼル)

三〇〇發

日軍服上下

一―着

復路ハ前同ト同様逆「ロー」ニテ軌ヲ指定地點寒河附近連絡所ニ到達  
後三日ニシテ糧秣ヨリ移動シ來レル「季青」部隊ニ遭遇シ物資及費  
金ヲ交附セリ時ニ昭和十五年八月下旬ナリ

★第三回入「ソ」連絡時ノ状況

「季青」ハ右物資受領後二日ニシテ軍安方面ニ移動セルカ其ノ出發  
ニ際シ「ソ」側ヘノ連絡文ヲ手交シ

「吾等」ノ出發後十二、三日ニシテ入「ソ」ニヘシ詳細ハ連絡文ニ  
メアルモ汝ハ口頭ヲ以テ柴軍長ニ面會シテ要求セヨ若シ面會ヲ  
許可セス入滿ヲ命スル事アラハ拒絕スヘシ又無線機ヲ携帶シ歸ル如  
ク要求シアルヲ以テ柴軍長ノ入滿スル際共ニ携帶シ來レト命ジ  
リ依テ本太ハ命令ノ如ク行動シツツ下「ヤルバカン」ヨリ入「ソ」  
セルニ今四ハ「バイペンコフ」ナル滿洲艦船ナル大尉ト操縦者交卷

シアリヨリ

「ウオロシコフ」到着後約十日ニシテ「榮世榮」ハ其中佐ト共ニ本  
名ヲ收容家歸ニ來訪シ來リ該中佐ノ許可ヲ得テ一泊シ第五軍ノ邊  
行動ニ就キ談合シヨリ其ノ後再ヒ十日ヲ經テ「榮」軍長ハ「張副官」

(無線手)「バイペンコフ」大尉及「リューレン」ト稱スル大佐ト

共ニ來リ同道入滿ヲ許可セラレタリトテ隣境地右大佐及大尉ノ見送

リヲ受ケ入「ソ」連絡ヲ進行シテ九月下旬頃大寒蕙河ニ到着三日後  
「季青」部隊ト遭遇合流セリ

「註」本入滿ニ際シ「張」副官ハ無線機一ツ背負ヒ本隊警備三名ハ

無線機用乾電池大六、小人計十四個ヲ背負袋ニ入レ携行セリ

§第四回連絡入「ソ」時ノ状況

「榮世榮」ト合流二日後阿羅圖ハ種稜縣梨樹嶺白石瀟子方面ニ移動  
シタルカ其ノ前日「季青」ハ連絡文ヲ手交シ左ノ命令ヲ與ヘタリ

「今四ハ氣候モ寒冷ニ向ヒアルヲ以テ被服ヲ受領セザレハ歸滿スヘ  
カラス又汝ノ歸滿迄ニハ當方ヨリ大名漢道ヌル決定ニ付歸滿ノ際ハ

之等ト共ニ種被縣栗樹嶺方面峰嶺子ニ來レ」  
 依テ命ノ如ク入「ソ」シ「バイペンコフ」ニ信書ヲ手交シ待機スル  
 コト約十日ニシテ「陳徳山」「戴寶廷」「朱元武」「趙長武」「王某」  
 「高某」ノ六名入「ソ」到着シ本名等三名トハ別個所ニ收容セラレ  
 タリ爾後約六日ニシテ左記物品ヲ受領ス  
 日軍冬服上下 二十七、八着  
 同 外 套 同 右  
 三八式小銃彈藥 約三、〇〇〇發  
 今四ノ歸漸ハ「グロヂョコサオ」北方地區ニ於テ國境ヲ突破シ連絡地  
 點ニル峰嶺子附近ニ於テ「榮世榮」匪團ト邂逅物資ヲ手交セリ時  
 ニ十月中旬頃ナリ  
 6「金日成」「崔賢」「安尙吉」等ノ北上合流ト部落、森林警察隊襲  
 撃ノ狀況  
 當時「榮世榮」匪團ハ東遼道地區ニ於ケル大討伐ノ實施ニヨリ遼定  
 北上シ來リシ「金日成」「崔賢」「安尙吉」等ノ匪隊ヲ合流シテ約

一二〇名餘ノ匪數ヲ算シ食糧ノ入手困難ナリシ爲本人等カ匪團ニ  
 歸投スル五日前後稜嶺白石嶺子部落ヲ襲撃シ食糧ノ入手ヲ企圖セ  
 ルモ遂ニ討伐隊ニ追ハレテ交戦シ戦死者三名、負傷者五名ヲ出シ  
 タリ爾後「金」匪團ハ南下シテ稜嶺、東寧縣境地帯ニ到リ楊木嶺  
 子森林警察隊ヲ襲撃シ食糧放ニ銃器彈藥等ヲ遺棄セリ  
 7「ウオロシコフ」赤軍隊報部「リニウシ」大佐ニ就テ  
 本隊者カ第三四連隊入「ソ」ノ際「ウオロシコフ」ニ於テ面接セ  
 ル「リニウシ」ナル大佐ハ「榮世榮」ノ首ニヨリ在「ウオロシ  
 コフ」赤軍隊報部内ニ於ケル共産匪ノ指導責任者ナル事概々確實  
 ナリ（以上趙某ノ語）  
 ハ東滿地區「金」抗日匪ノ入「ソ」ト匪團收容所ノ開設  
 ノ楊木嶺子森林警察隊ノ襲撃後ハ軍警討伐頓ニ激烈トナリ東寧地區  
 ニ於ケル潜伏モ困難トナリタルヲ以テ「榮世榮」ノ命ニヨリ全匪  
 團ハ分散シテ入「ソ」スルニ至レリ此レハ森林警察隊襲撃後約半  
 月以後ノ事ニシテ各匪隊ハ相前後シテ十一月ヨリ十二月末ノ間ニ

C-0026

0238

於テ入「ソ」運入ヲ終レリ

2 「オケアンスカヤ」南野營ノ開設

入「ソ」セル匪團ヲ「ウオロシロフ」陸軍部ハ滿洲新嶺附近「オケアンスカヤ」ニ「野營」ト稱スル收容所ヲ開設シ昭和十五年末ニ於テ約一五〇名ニ上ル匪ヲ收容セルコト既得資料ノ如ク此「野營」ハ哈府赤軍謀報部ノ操縱スル「エラボワカ」ノソレヲ「北野營」ト稱スルニ對シ「南野營」ト呼稱セリ

「南野營」ノ所在地「オケアンスカヤ」ハ帝政時代避暑地トシテ著名ノ海岸ニシテ野營開設迄ハ滿内遊撃戰ニ於テ負傷又ハ罹病シテ入「ソ」セル共匪ヲ該地ニ收容シ療養セシメアリシ所ニシテ匪團ハ別名「臥伏場」(避暑地ノ意)ト呼ビアリ

3 野營ニ於ケル各種教育ノ實施

赤軍謀報部カ南、北兩野營ニ於テ各匪ノ適性ニ應ジ謀報、謀略、無線操縱等ノ各種教育ヲ實施セル事ハ階級ノ既得資料ニヨリ明白ナルヲ以テ之ヲ省略スルモ此間日支事變ノ進展ト關「ソ」開戦ノ危險胎

動シアル時「ソ」側カ共匪ノ全面的利用ヲ策シテ昭和十六年ニ備ヘタル學亦爾ヲ俟タス

九獨「ソ」開戦前後ニ於ケル「ウオロシロフ」陸軍部ノ活動狀況

哈府並ニ「ウオロシロフ」赤軍謀報部ハ日「ソ」中立條約ノ締結ニ

モ不拘前述其他ノ理由ニ依リ共匪ノ謀報、謀略兩面ニ亘リ全面的利

用ヲ企圖シ各匪隊ヲ大部隊、小部隊ニ別ケ昭和十四年以降頻繁ニ投

入セリ

(一) 所謂「大部隊」行動ノ例

ノ昭和十五年末「ウオロシロフ」ノ南野營ニ收容セラレタル主要

匪首「金日成」「榮世榮」「李青」「崔賢」「安尙吉」等カ十

名乃至二十名ノ匪隊ヲ再編シ十六年ヨリ十七年ニ亘リ相前後シ

テ琿春、東寧兩縣境ヨリ汪清、東寧、琿春其他ノ國境各縣ニ潛

入セシメタル

2 「安尙吉」ノ入滿

昭和十七年五月「安尙吉」ハ「ウオロシロフ」ニ於テ汪清縣境

子溝方面ニ潜入シ同地及汪清附近ノ軍情偵察ノ命ヲ受ケ隊員十一名  
ヲ率ヒテ三岔河附近ヨリ入滿シ同年十一月迄該山中ニ潜伏シテ携帶  
セル無線機ヲ以テ諸情報ヲ提報セリ當時ノ編制左ノ如シ

- 1 隊長 安尙吉 (當時三九)
- 2 無線手 李乙説 (二三) 金基田 (抑留)
- 3 隊員 延龍國 (四二) 李致浩 (當時三三)
- 金益賢 (二二) 吳振 (二六)
- 單福千 (二四) 周道義 (二一)
- 許鳳鶴 (二五) 朴一龍 (二九)
- 崔春國 (三〇)

3 「柴世榮」「李青」ノ派遣入滿

昭和十七年五月本名カ「ウオロシ」ニ於テ「柴世榮」ト面談セ  
ル際「柴」ハ同年六月頃ニハ入滿スル答ナルニ付東寧縣二道溝西方  
山中ニテ連絡セントテ詳細連絡ノ打合セヲナシタルコトアリ  
「李青」ハ昭和十七年四月東寧縣、汪清縣ニ潜入シ十月迄行動セリ

4 「陶敬飛」ノ入滿

昭和十七年五月頃寧安縣ト濱江省五常縣縣境山中ニ於テ討伐隊ノ急  
襲ヲ受ケ潰滅セル匪ハ「陶」ノ部隊ナルコト概々確實ニシテ遺棄品  
中ニ「陶敬飛」ナル印刷アリタル外賣傷匪「劉」某又右ノ如ク陳述  
シアリ「陶敬飛」ハ元第五軍政治主任ニ任シアリタル者ナリ

5 「延龍國」「金基田」ノ派遣入滿

昭和十八年五月「延」「金」二名ハ「ウオロシ」ニ於テ汪清  
縣子溝附近ニ潜入シ軍情ノ蒐集無線報告ノ命ヲ承ケ入滿セリ

1 隊長 延龍國

2 無線手 金基田 李致浩

3 隊員 金德沫 (當時二三) 趙明善 (當時二二)

然ルニ「金基田」ハ七月十九日「李致浩」ト共ニ汪清縣大龍溝警  
察署ニ歸順シ該警察署員ト協力シテ同時入滿シタル「延」「趙」  
「金」ノ三名ヲ捕捉スヘク秘密通信所ノ所在地タル大頂溝ニ向ケ  
行動中警察官某ヨリ無線機者ハ歸順スルトモ概々察斷セラル旨聞



知シ悉海ノ爲反轉シテ脫走シ再入「ソ」セリ  
 ハ本名「ウオロシロフ」ニ到着セルユ「ソ」個指令者ハ既ニ其ノ事實  
 ヲ承知シアリテ嚴重ナル取調ヲ受ケタルモ暗順シタル事實ナレト否  
 定セルトモ取調者タル指令者「イワノフ」ハ「汝ノ陳述ハ皆確偽  
 ナリ」強シクノ事實ナレト言ヒ強ルニ於テハ證據ヲ見セザヤルヘシ  
 トテ「滿洲國各機關ニハ多數吾等ノ密偵潜入シアルカ屬子海ニ在ル  
 吾等ノ密偵「王乃馬」「劉慶生」等ト號兄弟ノ關係ヲ有スル屬子海  
 警察署員某ハ汝ノ暗順セル旨大荒海警察署ト連絡シアル状況ヲ全部  
 聴取シ他ノ交通員ヨリ連絡報告アリタルヲ以テ爾テヲ承知シアルナ  
 リ汝ハ先ツ最初彈丸二〇發ヲ提供シ其ノ後ニ於テ無證據ヲ平交スヘ  
 シト稱シ斷腹シタル事實迄無シト強辯スルヤ」等ト言明セリ  
 ニ「金基田」「カ「ソ」個ニ於テ同時ニ教育ヲ受ケタル無證據者次ノ如  
 シ  
 林喜秋（鮮） 崔春國（鮮） 柳連春（滿） 李希林（滿） 周福厚（滿）  
 高甲錄（滿）

〔所謂〕小部隊「諜者」操縦状況  
 ノ「李明順」「孫天寶」カ匪隊行動ヨリ小部隊諜者ヨリ所謂「小  
 部隊」行動ヲ轉移セシメラレタル如ク「ソ」個ハ諜報工作能力  
 優秀ニシテ暗順ノ虞レナク副塔地區ニ運送セル者ヲ以テ多數ノ  
 諜報組織ヲ共匪ヨリ索出シ昭和十六年以來一頁シテ國境第一線  
 及第二線地區ニ之ヲ扶殖シアリ而シテ「ソ」個ハ此ノ武裝工作  
 員ヲシテ訓練者等信憑スヘキ者ノ獲得ヲ實施入「ソ」セシメ  
 所要ノ教育ヲ與ヘテ隨時獲得者ト切離シ單獨「ソ」個トシテ之  
 ヲ操縦シ以テ諜報網ノ擴大強化ヲ企圖シアリ  
 2 我方諜者カ「ウオロシロフ」ニ被察留中暫見若クハ知得シアル  
 小部隊單位武裝左ノ如シ  
 1 李明順、孫 某（寧安附近ヲ目標地トス）  
 2 劉子臣、傅有山（寧安、寧安縣ナルヲ詳細不明）  
 3 吳連長、吳祝順（同）  
 4 金 某 （無證據者）

C-0026

024:

- 5 楊天寶 (本年六月被拘留)
  - 6 朴則官 (金桂萬) (同)
  - 7 陳德山 (行動區域不明、東寧縣チラン)
  - 8 王玉貴 (同)
  - 9 戴寶亭 (同)
  - 10 侯占林 (同)
- 3 「金桂萬」カ「ウオロシロフ」ニ於テ同時ニ教育ヲ受ケタル「ソ」  
 譯名次ノ如シ
- 李貴善 (鮮) 金某 (鮮) 傅某 (滿) 李福錄 (鮮) 王某 (滿)  
 范德林 (滿) 金亨在 (鮮) 方興堂 (滿) 金同志 (鮮)  
 \* 「金桂萬」ノ獲得誘致入「ソ」セシメタルモノ又左ノ如シ  
 柴光山 (滿) 宋文郁 (滿) 趙文全 (滿) 徐慶路 (滿)  
 右ノ入「ソ」者以外ニ目標地域ニ約八名ノ手先ヲ獲得シ多額ノ金銭  
 ヲ供與シテ之ヲ籠系シ逐次反滿抗日熱「ソ」思想ノ扶植ニ努メタリ  
 其ノ資金トシテ「ソ」側ヨリ受領シアル金額ハ昭和十七年六月ヨリ

本年七月迄七月ニシテ實ニ九千三百圓ニ達シタリ

1 大部隊行動ノ清算ト小部隊行動武裝ノ増加  
 ノ南内治安ノ發達ハ國境ニモ伸張シ必然的ニ大部隊隊ノ潜伏行動ヲ  
 許ササルニ至レルヲ以テ赤軍ハ昭和十八年來大部隊行動ヲ清算シ  
 最大限五名ヲ以テ隊者ヲ投入シアルコト前述ノ如ク而モ大多數ハ  
 二、三名ヲ以テセル工作員ヲ多數派遣スルノ策ヲ執リアリテ抑留  
 「ソ」隊カ「ウオロシロフ」ノミニマモ一〇〇名一三〇名ノ  
 工作員ヲ操縦シアリト稱シアルハ假令過大評價ト爲ス其ノ數ノ某  
 少ナラサルヲ證スルモノト當ヒ得ヘシ

2 南北兩野營ノ合併説  
 最近抑留セラルタル「ソ」隊ノ言ニヨレハ「オケアンヌカヤ」廣  
 在ノ南野營ハ北野營ニ合併セラルレ昨年來「オケアンヌカヤ」ニハ  
 傷病者數名ヲ殘留セシメアルニ過キサルモノノ如シ  
 其ノ原因ハ過ニ斷定シ難キモ從前ヨリ「エラボウカ」附近ノ北野  
 營ハ哈爾濱東軍司令部ノ直轄ヲ受ケ在滿共黨ノ總指揮ニ任シアル

「周保中」亦哈府ニ舞臺ヲラアル等ノ關係及海「ソ」兩國ノ死闘  
ハ東「ソ」赤軍隊報部勸新將校ヲキ運次西都戰線ニ轉出セシメ之ヲ  
爲共匪領導幹部ノ減少ヲ見又工作員ナル武裝ノ消滅ニキ基クモノト  
看做シ得ヘシ

C-0026

0243

米三行



極秘

機密第一九七八號

昭和十四年六月十二日

在上海

總領事 三浦 義秋

外務大臣 有田 八郎 殿

當地ニ於ケル佛國ノ諜報網ニ關スル件

本件ニ關シテハ本年四月八日附機密第一一七三號往信ヲ以テ中間報告及提出置キタル處ソノ後調査ノ結果判明セル所左ノ如シ

左

一 諜報機關

中支及北支ニ於ケル佛蘭西ノ諜報網ハ當地ヲ中心トシテ組織セラレ各地ヨリノ情報ハスヘテ當地ニ集メラレ然ル後本國ニ報告セラ

レ居ルカ如ク而シテ當地ニ於ケル諜報工作擔任者名左ノ如シ  
イ、政治情報

Knobel 大使館參事官

Gilbert 漢文書記官

Duval 領事

ロ、軍事情報

Roussle 中佐 (大使館附武官)

Perte-senechere 中佐 ( )

兩中佐共屢々重慶ニ往復シ不在勝ナル爲駐屯軍ノ

Pachy 大尉

Bouvet 中尉

主トシテ之ニ當リ

Besse 大尉

Pla 中尉

補佐シ居レリ

第三課  
昭十四年六月拾九日接受  
14.6.19  
第三課

C-0026

0244

ハ、經濟情報

Salliens 商務參事官

Vibien 補佐官

Kosman 書記官

Vibien ハ支那人實業家ニ知己多ク支那ノ經濟事情ニ精通シ居リ Kosman ハ特ニ日本ノ支那ニ於ケル經濟活動ニ關スル情報ヲ蒐集シ居レリ

ニ、諜報者

前記諸機關ト協力シ又ソノ指導ノ下ニ諜報ヲ蒐集シ居ルモノ左ノ如シ

1、工部局警察

當地ニ於ケル諜報工作ニ於テ最モ大ナル役割ヲ演シ居ルハ佛租界工部局警察ナルカ同警察ハソノ得タル情報ヲ大使、總領事、陸海軍武官、印度支那總督等ニ詳細報告シ又ソノ命ヲ受ケ情報

ヲ蒐集シ居レリ

同警察ハ警視總監 Fathre 副總監 Jolez ノ下ニ特高課アリ特高課ハ特別支那係、總務係、露西亞係、日本係及安南係ニ分レ居ル處今ソノ責任者ノ名ヲ舉クルニ左ノ如シ

特高課長 Sarity

諜報工作ハスヘテ同人ノ指導ニ係ル  
特別支那係長 Moret

多年當地ニ居住シ支那上流階級ニ知己多ク杜月笙配下ノ青幫紅幫ヲ操縦シ政治軍事情報ヲ蒐集ス

總務係長 Enelianoff (白系露人)

一九二一年以來勤務シ居リ英語、獨逸語ヲ自由ニ操リ外人間ニ知己多シ白系露人、「ソヴァイユト」側ニ關スル情報ヲ蒐集ス

獨逸係長 Usakovsky (白系露人)

舊帝制露西亞ノ將校ニシテ獨逸語ヲ好クシ工部局ニ勤務スルコ

ト約十年當地ニ於ケル「ナチ」ノ活動ヲ調査ス

日本係長 Henri

白系露人、朝鮮人ヲ使用シ日本僑ニ關スル情報ヲ蒐集ス  
安南係長 Gros

本係ハ印度支那總督ノ依頼ニ依リ特ニ設ケラレ居ルモノニシテ  
上海居住安南人ノ動靜ヲ監視ス

2、Padoux

「パ」ハ南京政府ノ顧問タリシコトアリ極東問題ノ權威者ニシ  
テ同人ハ單ニソノ聞込ヲ大使ニ通報スルノミナラス種々進言シ  
居レルカソノ言ハ常ニ重視セラレ居レリ

3、D'auxion Ruffer

印度支那及支那ニ於テ判事タリシコトアリ長ク極東ニ居住シ外  
人間ニ知己多クソノ報告ハ重キヲ爲シ居レリ

4、Havas 通信

極東總支配人 Breal ハ常ニ「クリーベル」參事官及「ボーデ」總  
領事ト連絡シ居レリ

同通信ニハ特別情報部設ケラレアリ Hourie 之ヲ擔任シ米人 Alcott  
及 Howard ヲ使用シ主トシテ政治情報ヲ蒐集シツツアリ大使館筋  
ヨリ相當多額ノ工作費ヲ受ケ居ルヤナリ

5、Ungern-stenberg

白系露人ナルモ佛國籍ヲ有ス M・M 汽船會社ニ勤務シ海軍筋ニ  
「サーヴィス」ス

6、Merchand

Schneider-creuzot ノ駐支代表ニシテ Roussle 中佐ノ爲軍事情報ヲ  
蒐集シ居リ Foulard 之ヲ補佐シ居レリ

7、Foulentier

佛國陸軍退役大尉  
日本軍ノ砲兵及機械化部隊ノ調査ヲ行ヒツツアリ

C-0026

0246

8、Snopoff (白系露人)

佛租界工部局警察ノ諜報者ニシテ日本側ノ情報ヲ蒐集ス

9、French Catholic Mission of Jesuits

支那ニ於テ最モ古キ歴史ヲ有スル「ミツション」ニシテ支那人  
間ニ大ナル勢力ヲ有ス宣教師ノ中ニハ巴里參謀本部ノ工作員タ  
ルモノモアルヤニテ又嘗テ軍籍ニアリタルモノモ相當アリ  
全支各地ノ教會ハ上海ノ本部ニ對シ定期ニ政治軍事情報ヲ報告  
シ本部ヨリ必要ノ向ヘ移謫シ居レリ

三、工作ノ重點

諜報工作ノ重點ハ我方ニ向ケラレ居ルカ如ク我方ノ佛租界對策、  
軍ノ動キ、經濟的活動、維新政府ノ内情等ニ特ニ意ヲ注キ居ルカ  
如ク又印度支那防衛ノ關係ヨリ我海軍ノ動キニ付キテハ特ニ神經  
過敏ナルカ如シ

四、第三國諜報機關トノ關係

「ソ」側諜報機關トノ連絡ハ確實ナルカ如ク今日迄判明セル所ニ  
依レハ「ロシマン」商務書記官ハ「ソ」側經濟諜報部ト連絡シ居  
ル模様ナリ

英國領機關トノ連絡ハ租界問題ヲ繞リ相當密接ナルカ如シ

佛國ノ諜報機關ハ又當地佛租界内ノ支那側抗日分子ヲ暗黙ニ保護

シ之ヲ利用日本側ノ情報ヲ蒐集シ居ルヤナリ

右冒頭往信補足旁報告ス

本信寫送付先 在北京參事官

天津 南京 漢口

申

米三行

寫

栗利が為第三課長

中、三

田

陸軍省  
7.24  
第三課

機密第二〇二一號

昭和十四年六月十五日

在上海

總領事 三浦 義秋

外務大臣 有田 八郎 殿

當地ニ於ケル英國ノ諜報網ニ關スル件

本件ニ關シテハ本年二月二十三日附機密第六四六號往信ヲ以テ中間的報告及提出置キタル處其ノ後調査ノ結果判明セル所左ノ如シ

一、諜報機構

中文及北支ニ於ケル英國ノ諜報機構ハ當地ヲ中心トシテ組織セラレ政治拉隊軍關係、海軍關係及經濟關係ノ三部門ニ分レ各獨立シテ活

在上海日本總領事館

動シ居ルカ如シ政治拉隊軍關係ノ指導者ハ當ニ陸軍人ニシテ本部門ノ規模ハ最モ大ナルモノノ如ク總領事館、工部局警察、支那各地ニ在ル宣教師、英米領事、重鎮至石油等ヲ自由ニ驅使シ諜情報ヲ蒐集シ居ルカ如シ

海軍部ハ今次事變發生ト共ニ特別部ヲ設ケ我海軍ノ行動及陸軍御用船ノ監視ニ當リ居ルカ如シ

二、諜報工作員

一、政治陸軍部門

本部門ノ現指導者ハ大使館附武官 Smith 中佐ナリ同中佐ハ來支前「パレスチナ」及印度ニ於テ諜報官タリシコトアル諜報工作ノ權威者ナル處同中佐ヲ補佐シ又ハ同中佐ノ指揮ヲ受ケ諜報工作ニ從事スルモノ左ノ如シ

Kirby 中佐

Atoken 大尉

在上海日本總領事館

C-0026

0248



HILL 大尉 英國大使館附屬部長  
 第三團、往復電報設備、解説ヲ爲ス  
 Davidson-Rouston 大尉 參謀本部特設  
 Oryun 少佐 印度陸軍中佐  
 Alexander 領事  
 工部局特高課ヲ操縦ス  
 Thomas 領事  
 日本語ヲ好クシ、日本側ノ情報ヲ蒐集ス  
 Holmes 官補  
 又本部門ノ外勤隊報者左ノ如シ  
 John Cook  
 本年六十歳位益過去ヲ英國ノ隊報工作ニ轉々來レル熟練工作員  
 Robertson 工部局警察特高課長  
 Ross 工部局警察政治部員

在上海日本總領事館

Ellenoff 白承譯人 亞細亞貿易商會支配人  
 Bernhalt 獨逸系譯人 新聞記者  
 Spear 中佐直屬ノ隊報者  
 Piper 倫敦俱樂部所有者  
 Becker 「ナチスム」黨員  
 右ノ外支那各地ニ散在スル宣教師ハ何レモ定期的ニ情報ヲ報告  
 シ居レリ  
 2 海軍部門  
 本部門ノ指導者ハ Jones 大尉ナル處同大尉ノ指揮下ニ隊報工作  
 ヲ行ヒ居ルモノ左ノ如シ  
 Snyder 退役海軍中佐  
 Green 技師  
 本部門ハ無線電信部ヲ有シ Wilson 大尉及 Whiting 之ヲ擔當ス  
 又本部門ノ隊報者左ノ如シ

在上海日本總領事館

C-0026

0249

「ハルビーフィールド」倉庫主任  
 英海軍部ノ諜報工作ニ從事シ多数ノ支那人及外人諜報者ヲ使  
 用ス  
 Brown 江海關員  
 Von Ranshner 前露西亞工兵大佐  
 要塞ノ専門家  
 Grosland Union Steamship Co. 事務ス  
 日本側ノ諜報ヲ蒐集ス  
 Elliot 亞細亞石油  
 前英國海軍將校 中國沿岸ノ航路ニ精通ス  
 今次事變發生後海軍部ハ日本海軍ノ行動及軍用船ノ動キヲ調査  
 スル爲特別部ヲ設置シ支那沿岸及揚子江下流ノ主要地點ニ據點  
 ヲ設ケ又該方面ヲ航行スル英國船舶ニ調査員ヲ乗組マセ居レリ  
 3 經濟部門

在上海日本總領事館

本部門ノ指導者ハ大使館附財政顧問補佐官 Scott ニシテ同人ハ  
 商業會議所主要會社銀行ヨリ情報ヲ提供ヲ受ケル外異地ニ散在  
 スル宣教師ヲ通シ支那農村ニ關スル情報ヲ受ケ居レリ  
 工作概況  
 當地ニ於ケル英國ノ諜報網ハ著シク發達シ居リ我方ニ關スル情報  
 ハ相當詳細ニ知レ居ル由ナリ  
 我方ノ會社銀行ニ勤務スル支那人外國人ハ殆ント直接又ハ間接ニ  
 英國ノ諜報機關ト連絡アルモノノ如ク又維新政府、市政府ニモ英  
 國側工作員ノ銅手伸ハサレ居ルヤナリ  
 就中海軍部門ノ特別部ノ活動ハ極メテ活潑ニテ我艦艇ノ行動、陸  
 軍側用船ノ動キハ正確ニ調査セラレ居ルヤナリ  
 同第三國諜報機關トノ協力  
 英國側カソノ得タル軍事情報ヲ支那側ニ通報シ居ルハ事實ナルカ  
 如ク又佛、「ソ」諜報機關トモ連絡アリトノ聞込屢アリ

在上海日本總領事館

C-0026

0250

右買頭往信補足券報告ス  
本領事館付先 在東京参事官 天津 南京 漢口

在上海日本總領事館

C-0026

025 :

極秘

寫

C80.0.X6

極秘第五八號

昭和十九年三月六日

在牡丹江  
領事代理 古屋克正

在  
特命全權大使 梅津美治郎 殿

東「ソ」ニ新型戰車出現ニ關スル件

某方面ヨリノ開込ニ據レハ二月十三日東安正面ニ於テ「ビヤン」  
「ルージノ」間ヲ「マータ」13型戰車一、「エム」13中型戰  
車一、「テー」70型一、「テー」13型三、「テー」126型七臺

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

31

昭和十九年四月 壹日接受

ヲ積載セル軍用列車ノ南進ヲ目視セリト而シテ「マータ」13型  
戰車(英國製)「エム」13型中型戰車(米國製)ノ出現ハ之カ  
最初ナリト右御參考迄報告ス

本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

32

C-0026

0252

外務省調査局第二課

極秘

寫

極秘第五七號

昭和十九年三月六日

在牡丹江  
領事代理 古原克正

在滿  
特命全權大使 梅津美治郎 殿

在支敵空軍ノ新動向ニ關スル件  
本件ニ關シ某機關係報別添送付ス

本信寫送付先 大東亞大臣 外務大臣 哈爾濱總領事

在牡丹江日本領事館

昭和十九年四月  
別紙添附  
同日接受

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

33

C-0026

0253

極秘

寫

北支敵空軍ハ昨年十一月頃ヨリ漢中・黃鶴・南浦・西安等北滿陝西  
省「オールドス」方面ノ基地強化ヲ圖ルト共ニ緊急警備ヲ（燃彈燃料ノ  
兵備厚ナリ）約四、〇〇〇挺ヲ集積中ニシテ向本年一月初メ山東・  
河北省ノ氣象通報ヲ督促スル等其ノ意向顯著ニシテ國府企圖上敵ニ  
警戒ヲ要スルモノアリ

S 3.8.0.0-1

34

C-0026

0254

外務省調査局第二課

極秘

寫

極秘第六二號

昭和十九年三月十四日

在牡丹江  
領事代理 古屋克正

在  
特命全權大使 梅津美治郎 殿

「ソ」側飛行機西送状況ニ關スル件  
各年十二月中ニ於ケル「コムソモリスク」ヨリノ飛行機西送状況  
ニ關スル某機關別添送付ス  
本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

三  
文書課

昭和十九年五月十四日

5.12

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格 JIS)

S 3.8.0.0-1

35

C-0026

0255

極秘  
寫

十二月 中鐵道輸送ニ依ル「コムソキリスター」ヨリシ飛行機西送狀況  
次ノ如シ

機種	上旬	中旬	下旬	計
NI 14 型遠聲	一〇	一〇	一〇	三〇
小型機	〇	〇	一八	一八
合計	一〇	一〇	二八	四八

尙輸送ニ際シテハ辛領者トシテ下士官一名ヲ隨件セシメアリ



外務省調査局第二課

極秘

寫

C 8.0.0.224

極秘第七七號

昭和十九年四月四日

在牡丹江

領事代理 古屋 克正

在滿

特命全權大使 梅津 美治郎 殿

東「ソ」ニ於ケル赤軍諸學校ニ關スル件

在東「ソ」赤軍諸學校ニ關シ別紙寫ノ如キ情報入手ノ儘御參考迄茲ニ送付ス

本信寫送付先 外務大臣 大東亞大臣

哈爾濱總領事

昭和十九年四月廿四日 別紙添附 接受

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格 B5)

S 3.8.0.0-1

37

C-0026

0257

極秘

寫

ニ士官學校

在東「ソ」赤軍諸學校

學校名	所在地名
「ザバイカル」機關銃士官學校	「アタマノフカ」
「イルクーツク」工兵士官學校	「イルクーツク」
「チエルニコフ」	
「エニセイ」陸軍士官學校	
陸軍政治士官學校	
「ザバイカル」歩兵士官學校	「チイビジョンナヤ」
機關銃追撃砲兵士官學校	
「スレテインスク」歩兵士官學校	「スレテインスク」
歩兵士官學校	「スウアボードヌイ」
	「シエルセヴォ」
追撃砲兵士官學校	哈
戰車士官學校	府

1

S 3.8.0.0-1

38

ニ下士官學校

學校名	所在地名
砲兵士官學校	哈 府
第二「ウラチウオストク」機關銃士官學校	「コムソモリスク」
第一「ウラチウオストク」歩兵士官學校	浦 潮 二 番 河
内務人民委員部「レニングラド」士官學校	「チ タ タ」
士官養成所	「ホ ロ ー リ」
高級指揮官學校	浦 潮
ニ下士官學校	
「モスクワ」軍事技術學校	「チ タ タ」
「チタ」鐵道輸送技術學校	
第二「ロストフ」砲兵特殊中學校	
第一軍事技術學校	「チ タ タ」
測地技術學校	「イルクーツク」
第二五衛生學校	
機 甲 學 校	「ウランウチ」

2

S 3.8.0.0-1

39

C-0026

0258

東「ソ」正面軍計器下士官學校  
 工兵實施學校  
 軍事技術下士官學校  
 火焰放射兵化學實施學校  
 狙撃兵學校  
 「ウオロシロフ」  
 「スウアボードヌイ」  
 哈 府  
 哈府「クラスナヤ・レーチカ」  
 「シユコトウボ」

C-0026

0259

極秘

寫

極秘第七八號

昭和十九年四月四日

在牡丹江

領事代理 古屋 克正

在 滿

特命全權大使 梅津 美治郎 殿

東「ソ」ニ於ケル陣地施設及都市防衛ニ關スル件

東部「ソ」領ニ於ケル戰略的後方重要諸都市ノ防禦施設、組織並ニ訓練ハ獨「ソ」戰ノ經驗ニ鑑ミ相當強化セラレアルモノノ如シ  
右ニ關スル權威筋ヨリ出テタル情報別紙寫ノ迪茲ニ送付ス

本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

昭和十九年四月廿四日發  
別紙添附 B

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0 - 1

41

C-0026

0260

極秘  
寫

東「ソ」ニ於ケル陣地施設及都市防衛

一 滿洲北方防禦砲臺ニ付テ  
昭和十六年秋頃滿洲北方「ウグロイツヤ」南方高地東西約一二一  
一四軒ニ亘リ一二〇耗沿岸防備砲一二門ヨリナル砲臺構築セラレ  
太平洋艦隊隷下沿岸防備予備砲兵第三一五聯隊第三大隊之ヲ守備  
ニ任シアリト

二 「ウオロシロフ」

市内ノ不要家屋ヲ取壊シタル材料又ハ其ノ他ヲ以テ十字路及重要  
建築物ノ周圍ニ防禦術工物ヲ構築シ南郊ニ高射砲「トーチカ」ヲ  
新設ス

尙客年二月及四月ノ二回ニ亘リ歩、戰、砲、飛各部隊ノ外一般市  
民ヲ以テ編成セル義勇軍ヲモ加ヘ大規模ナル防衛演習ヲ實施セリ  
其ノ構想ハ「スターリングラード」「レニングラード」防衛戰ノ  
經驗ヲ取り入レタルモノノ如シ

1 哈 府

8 3.8.0.0-1

42

四 「コロキヤン」

一、一九四二—三年間重要官衙學校等ノ一部ハ瓦斯濾化機ヲ設備  
セル地下瓦斯避難所ヲ建設セリ  
ロ、「キーロフ」軍港北方ヨリ哈府大飛行場北方ニ至ル間市街ヲ  
圍繞スル如ク對戰東線構築セラレアリ  
ハ、「アムール」鐵橋附近「アムール」「ウスリ」合流點附近  
基地重要構築物周邊ニ阻礙氣球相當數配置サレアルモノノ如  
シ

新築兵舎ハ鐵テ土質式キシテ又既設ノモノト雖モ重要建築物ハ地下  
式ニ改築シ新築家屋ハ郊外ニ疎散セシメ構築軍需工場等ニハ警備  
嚴ク新設常時立哨セシメアルカ如シ

五 「チタ」

一、第二「チタ」ニハ「ラーゲリ」囚人ヲ以テ鐵筋「コンクリー  
ト」製防空壕ヲ構築シアリテ收容人員ハ夫々八〇名程度ナリ  
ロ、「チタ」市ニ於テハ高射砲一個聯隊以上ノ兵力常時陣地ニ配

8 3.8.0.0-1

43

3

置キラレアル外航空部殿亦當ニ取極メ待機オシメテリ

S 3.8.0.0-1

44

C-0026

0262

外務省調査局第二課

極秘

寫

C 3.8.0.0 X4

極秘第八〇號

昭和十九年四月六日

在牡丹江

領事代理 古屋 克 正

在 滿

特命全權大使 梅 津 美治郎 殿

東「ソ」航空部隊ノ訓練狀況ニ關スル件

別紙寫ハ昭和十八年中ニ於ケル東部「ソ」領航空部隊ノ訓練狀況ニ某機關カ若干ノ觀察ヲ添加セルモノナリ入手ノ儘何等御參考送付ス

本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

昭和十九年四月廿四日接別紙添附

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0 -1

45

C-0026

0263

秘

寫

東「ソ」航空部隊ノ訓練狀況

一 國境第一戰ニ於ケル航空部隊ハ一面要員教育ニ努ムルト共ニ他  
面對日戰備強化ヲ實施シアルモノノ如シ即チ國境附近要地ニ  
ハ潜伏機ヲ配置シ警戒ヲ嚴ナラシメアルモ反面飛翔機ノ過半數  
ハ練習機乃至舊型機運送機タル一五三型等ニシテ之等ハ離着陸ノ  
他初歩的訓練ヲ實施シアリ

二 昨年度ニ於ケル飛翔機中機種比較的明瞭ナルモノノ分科別比  
率左ノ如シ

機種	種別	比率
練習機	三九%	舊型機ノ比率ハ約八〇%ナリ
遠征機	五四%	
爆撃機	五%	
其他	二%	

三 東「ソ」方面ニ於ケル飛行學校ハ極メテ小數ニシテ下士官  
學校二一三ヲ有スルモ内容貧弱ナルモノノ如ク空中勤務員

ノ大部ハ「イルターツター」以西ニアル養成學校ニ於テ養成セ  
ラレ學校卒業ト同時ニ部隊出屬所要ノ訓練ヲ受ケタル後西送  
セラレアルモノノ如シ  
訓練ノ最盛期ハ七八月ニシテ最も閑散ナルハ一二四月ナリ  
月ハ若干飛翔機ノ増加ヲ認メラル



外務省調査局第二課

極秘

寫

極秘第八一號

昭和十九年四月七日

在牡丹江

領事代理 古原 克正

在 滿

特命全權大使 梅津 美治郎 殿

「ソ」機飛行機西送状況ニ關スル件

各年十二月中ニ於ケル「イルクーツク」ヨリノ飛行機西送状況ニ  
關スル某機報別添送付ス

追テ在信極秘第六三號御参照アリ候

本信局送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

昭和十九年四月廿四日接受  
別紙添附

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

48

C-0026

0265

寫

機

東「ソ」ヨリ、遠端機運送状況  
 M1型遠端機ノ十二月中ニ於ケル「イルターツク」ヨリノ運送  
 空輸機數ノ合計ハ七〇一八〇機ナルカ如シ  
 從テ「コムソモリスター」第一二六號工場ノ十二月中ニ於ケル西送  
 機數ハ既報ノ如ク三〇機ナルヲ以テ「イルターツク」第三九號工  
 場ノ製産高ハ四〇一五〇機（月産）ナルモノト判斷セラル

S 3.8.0.0-1

49

C-0026

0266

外務省調査局第二課

秘

寫

C80.0.14

秘第八八號

昭和十九年四月二十日

在牡丹江

領事 古原 京 正

在 滬

特命全權大使 梅 津 美治郎 殿

東「ソ」ニ於ケル軍事保護ニ關スル件

本件ニ關シ某機關ヨリ入手セル情報何等御參考迄別紙寫ノ通發許  
送付ス

本信寫送付先 外務大臣 大東亞大臣

哈爾濱總領事

別紙添附  
昭和十九年五月十日接受

同一信左記局課へ附付済

政三  
文符課

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

50

19.5.12  
第一號

C-0026

0267

親

寫

東「ソ」ニ於ケル軍事保護事情ノ一端

各種扶助料ニ就テ

ノ傷疾軍人ニ與スル扶助料

イ、「三」ジホ。ミハイロフニ村（ビキヤン西南五〇軒）ニ於テハ

一九四二年六月頃左腕ノ自由ヲ失ヘル傷疾軍人一名アリテ

毎月九〇圓ノ扶助料ヲ受ケ兩腕ノ許ニテ生活シテアリタリ

但シ右ハ辭養期間ノミニシテ其ノ後ハ軍事委員部ニ出頭シ

軍醫ノ診斷ヲ受ケ軍務ニ服シ得ラルル程度ナル時ハ更ニ召

集ヲ受ケ戦地ニ派遣セラルト

ロ、「ウ」グロローワヤ「抗」ニ於テハ一九四二年六月頃戦地ヨリ歸來

セル傷疾軍人七名アリテ兵役ヲ免除セラレ夫々扶助料ヲ受

ケアリタルモ其ノ額ニ付テハ不明ナリ

ハ、哈府ニ於テハ一九四二年春以來市内ニ多数ノ傷疾軍人ヲ見

受ケ同年末ニ至リテハ特ニ杖及松葉杖ヲ使用セルモノ多数

トナリタルカ開知セルトコロニ依レハ之等傷疾軍人ハ益々

S. 3.8.0.0-1

51

88

11

勤務ニ従事シ得サル者ノ扶助料ヲ支給セラレ其ノ額一ニ〇

一ニ〇〇留程度ナルカ如シ

尙書疾軍人ト雖モ一定ノ標準ニ従事セハ扶助料支給ヲ停止セ

ラン

ニ、「レ」キヤン河上流「ロ」三部落ニ於テハ昨四三年十一月末扶助料

ヲ支給セラレアル傷疾軍人四名アリタルモ其ノ額不詳ナリ

因ニ負傷ノ程度及生活状況ヲ違フレハ左ノ如シ

ウザイ。ミハイル 三四歳 左手薬。小指ナシ。麻痺ニテ兵役免除

ウザイ。ニコライ 三六歳 左手肘關節ノ上部ヨリ切斷セリ

ウザイ。シコロヤ 三九歳 右手右足 不随 無職

シコロヤン「ガ」フア「フ」三 三九歳 右手人差指無シ無職。肺病ニテ兵役免除

ホ、「カ」イメン「シ」イ「ボ」ロツ「約」五〇名「及」ヨ「メ」ツ「ヤ」ロ「フ」メ「キ」

五名「ニ」於テハ陸軍病院發給ノ證明書（階級。家庭。状況。職傷ノ程度等記入）ニ基キ支給セララル扶助料ニ差異アルモ

S. 3.8.0.0-1

52

C-0026

0268

傷愈治シ再び職名セハ扶助料ハ停止セラル

(1) 將校ハ階級ニ依ル傳給額ヲ基準トシテ扶助料額ヲ定メラレ  
アルカ如キモ概ネ傳給額ヨリ若干減シタル程度ノ額ナルカ  
如シ

(2) 下士官以下ニ對シテモ階級ニ依リ差異アルカ如キモ通常赤  
兵ハ二〇〇—二五〇留リ下附セラレアルカ如シ

但シ赤兵ト雖モ兩親其ノ他身寄リノモ、無ク他ニ收入ノ道  
無キ者ニ對シテハ毎月四〇〇留内外ノ扶助料ヲ支給セラレ  
アルカ如シ

2 戦死者ノ遺族ニ對スル扶助料

イ、一九四二年六月頃「カールメンルイボロフ」及「ヨミソサロフス

キ」ニ於ケル扶助料ノ支給状況左ノ如シ

(1) オリガ 子供二名アリ

夫ハ中尉ニシテ戦死

扶助料 毎月四〇〇留

尙恩給手帳ニハ扶助料支給期間ハ戦争終了迄ト記載セラレテ

(2) クラフチコロタ・ウエラ 女兒一名アリ

「ヨミソサロフスキ」ニ於ケル所屬乳牛納稅所ニ勤務夫ハ一赤兵トシ  
テ職名・戦死

扶助料ハ支給セラレアラヌ

ロ、「カロー」ニ部落ニ於テ扶助料ヲ受ケアル遺族左ノ如シ

(1) カンチユガール・エドミール 四三歳 夫赤兵・戦死

子供六(一五・一一・八・六・四・二歳)

毎月一〇〇留

(2) スアンカーザンジュリ 六一歳 次男(赤兵) 戦病死(長男モ出征中)

妻五八歳及長男ノ子供二(七・五歳)

毎月五〇留

出征軍人ノ家族ニ對スル扶助料

イ、「カールメンルイボロフ」及「ヨミソサロフスキ」ニ於テハ一八歳以下

ノ子供二名以上ヲ有スル者ニ對シ一名ニ付毎月二五留ノ扶助料ヲ支給セラレアリ

尙扶助料ハ妻ヤ同一家族内ノ者カ勞働ニ從事シアリト雖モ一八歳以下ノ子供ニ對シテハ總テ扶助料ヲ支給セラレアリ

ロ、哈府ニ於テハ一九四二年末頃迄ハ其ノ遺族カ勞働力ヲ有セス獨立ノ生活ヲ營ミ得サルモノノミニ限り扶助料ヲ支給シアリタリ但シ幼児ヲ有スル家族ニシテ託兒所ノ都合ニ依リ勞働ニ從事シ得サル場合ハ扶助料ヲ支給シアルモ其ノ額及子供ノ數ニ關係ヲ有シアルヤ否ハ不詳ナリ

ハ、「オロ」部 部落ニ於テハ夫若シタハ息子召集セラレタル家庭ハ子供二名一四名ニ對シテノミ一名ニ付毎月二五留ノ扶助料ヲ給セラレ一名及五名以上ノ場合ハ支給セラレヌ

又父六〇歳、母五〇歳以上ニシテ扶養義務者無キ時ハ一名ニ對シ毎月二五留宛支給セラレアリ

一九四三年十一月末ニ於テ扶助料ヲ受ケアリタルモノ一〇名ナリ

ニ 傷病軍人、出征軍人ノ家族及戦死者遺族ニ對スル保護、施設及特典

ノ 傷病軍人ニ對スル勞働施設及特典

イ、哈府ニ於テハ新職業ニ從事スル傷病軍人ニ對シテ各工場、機關内ニテ特別ノ講習會ヲ開催シ傷病軍人ノ職業轉處ヲ計リアリ

哈府「ゴーリヤ」名譽飛行機工場及其他數個ノ工場ニ於テハ「坐」シテ出來ル安易ナ仕事」ヲ設ヘアリト

又市ノ傷病軍人補導機關ニ於テハ傷病軍人ニ對スル簿記講習會、寫眞術講習會其他種々ノ講習會ヲ開キ傷病軍人ノ職業轉處ニ努メ其ノ他ノ職業ニ對シテモ優先的ニ就職セシメアリ

其他傷病軍人ニ對スル特典ヲ述ヘレハ左ノ如シ

- 1 戦時稅ノ免除
- 2 居住地ノ選定ニ對スル自由權
- 3 住宅ノ優先的轉處ヲ受ケ

C-0026

0270

- 4 パン、優先的配給
- 5 被服、酒類其他生必需品、優先的配給
- 6 電車、バス、無料

ロ、「ウグロローワヤ」炭坑ニ於テハ特ニ傷痍軍人ノ職業斡旋機關ナキモノコトウチ「軍事委員部」ニ於テ種々ノ援助ヲ爲シアリ

炭坑ニ於テ便宜ヲ與ヘアル状況次ノ如シ

ノ辭務中ノ者ハ勿論輕労働ニ從事シアル者ニ對シテモ等シク地下労働者ト同量（八〇〇瓦）ノパンヲ配給ス

2 炭坑所屬ノ商店ニ於テ優先的ニ生必需品ヲ配給ス

食堂ニ於テハ順着ヲ待ツコトナク優先的ニ食事をセシメラル

ハ、「カーメンレイボロフ」及「コミツヤロフスキ」ニ於ケル傷痍軍人ノ職業斡旋ハ軍事委員部ニ於テ實施シアリ

傷痍軍人ニ對スル特典表左ノ如シ

ノ汽車、汽船ノ旅行ハ無料

2 傷痍軍人ノタメノ専用食堂アリテ給養良好ナリ

軍配給所ヨリ食料品及嗜好品等ノ配給アリ

「セリボ」ヨリノ配給ハ優先的ナリ

- 4 軍用街ヘノ出入自由ナリ
- 5 俱樂部及遊藝館ノ入場料ハ無料ナリ
- 6 自動車ノ乗車自由
- 7 一般地方人ノ入手不能ノ赤軍機關紙其ノ他ノ新聞ヲ購讀スルコトヲ得

ノ戦時税及「ボルホーズ」員ノ自作農（菜園）ニ對スル免稅

ニ、「イマン」市ニハ療兵組合アリテ傷痍軍人ノ職業ヲ指導斡旋シテ

本組合ハ市内ニ五ヶ所アリテ例レモ「アイザアヤ」ザリヤ」ノ名稱ヲ有シ戦前ハ第一種ニ屬スル市民モ多数アリタルカ最近ニ於テハ殆ド傷痍軍人勸誘シアリ

組合ノ種類及就業傷痍軍人数左ノ如シ

又「コルホー」区員ニ對シテハ毎月二日間ノ特別休暇ヲ與ヘアリ  
 哈府ニ於テハ出征軍人ノ家族ニ對シテハ願召者乃至其ノ妻又ハ  
 家族等ノ勤務所屬機關ヨリ生活必需品ノ配給其ノ他ノ便宜ヲ供  
 與セラルルコトトナリアルモ各機關ハ現従業員ニ對シテモ配給  
 不足ナリトテ之ヲ拒絕シアル現状ナリ  
 其ノ他職業斃命ノ子女ノ就學等ニ就テハ出征軍人ノ家族及戰死  
 遺族ノ別ナク例レモ優先的ニ便宜ヲ與ヘアルカ如シ

小人數ノ家族 反物 五米  
 小麥 一一(一四?) 疋  
 反物 五米

靴工組合 約一〇名  
 製パン組合 ?  
 縫工組合 約二〇名  
 飲料水(ダワス)組合 ?  
 ランヤ製菓組合 三名  
 \* 浦鹽市ニ於テハ傷痍軍人ノモノ職業指導機關アリテ積極的ニ  
 職業ノ指導斡旋ヲ計リアリ  
 特ニ某美術學校ハ傷痍軍人ノ職業指導ヲ爲シアルモノノ如ク  
 生徒約三〇名(全員職手)養成ヲ欲メアル傷痍軍人ナリ  
 2 出征軍人ノ家族戰死遺族ニ對スル保護及施設ニ特典  
 イ「コミツサロフスキ」ニ於テハ一九四三年四月頃出征軍人  
 ノ家族ニ對シ「セリボ」ヨリ左ノ如ク食糧及衣料ノ特配ヲ實  
 施シアリ  
 五人家族以上 小麥 二〇疋

C-0026

0272



外務省調査局第二課

極秘

C 8.0.0. XL.

極秘第八九號

昭和十九年四月二十一日

在牡丹江  
領事

古屋克正

昭和十九年五月拾壹日  
文符課

19.5.12  
第二

在  
特命全權大使 梅 澤 美治郎 殿

赤軍士官學校ニ關スル件

赤軍「スヴォーロフ」士官學校ニ關スル某機關入手ノ儘別紙寫  
ノ通致ニ送付ス

本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

61

C-0026

0273

極秘

寫

赤軍「スヴオーロフ」士官學校ニ就テ

赤軍ハ將來ノ赤軍將校養成ノ目的ヲ以テ舊帝政陸軍ノ幼年學校ノ制度ニ倣ヒ「スヴオーロフ」士官學校ヲ設立シ一九四三年十二月一日授業ヲ開始セリ

本學校ハ予科二年本科七年トシ本科七年生徒定員各校五〇〇名、九校合計四、五〇〇名ナリ

而シテ右定員ヲ速ニ充足スルタメ開設第一年度ニ於テハ命令ニ應ジ

予科二年及本科下級生四學年ヲ同時ニ入學セシメ現在各校共予科生徒ヲ含ミ約五〇〇名ノ生徒ヲ擁ス

本校ハ主トシテ赤軍々人「バルチザン」又ハ獨「ソ」戦ニ依リ兩親ヲ失ヒタル孤兒ヲ生徒トシテ收容シ一切官費トシ中等程度ノ普通學ヲ教育スル外必要ナル軍事教育ヲ實施ス

内務人民委員部ハ「エヌ・カー・ヴエー・デー」  
「スヴオーロフ」士官學校ヲ海軍人民委員部ハ「ナフイーモフスコエ」士官學校ヲ

夫々右赤軍「スヴオーロフ」士官學校ニ準シテ設立セリ

極秘

外務省調査局第二課

極秘 第九五號

昭和十九年四月三十日

在牡丹江

領事

古屋

克正

取三

支役

同一信左記局課へ配付

昭和廿壹年 五月廿參日 接  
19.5.23  
課二第

寫

在滿

特命全權大使 梅津 美治郎 殿

太平洋艦隊ニ關スル件

某機關報ニ據ル太平洋艦隊配置狀況別表ノ遺送付ス本配置ハ自一九四〇年至一九四三年初頭間ノ情報ニ依ルモノニシテ既情報(當館時局情報一八、八、一八第九號参照)トノ差異特ニ根據地ニ關シテハ尙檢討ノ要アル趣ナリ

本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0 - 1

64

C-0026

0275

極秘

太平洋艦隊配置表  
イ、艦種別ニ隻數

艦種	型	艦名	隻數	摘
巡洋艦	キーロフ型	カリーニン	一	本姉妹艦一問モナク完 成スヘシ
指揮艦		オレンヨニキーゼ トビリン	二	
驅逐艦	グネウニイ型		六	
驅逐艦	レーニン型		二	
驅逐艦	グネウニイ型		二	建設中
水雷艇	S型		七	
快速艇			約一〇〇	
潜水艦	山型		三八	抑留者ノ情報ニ依レハ 山型 五〇

S 3.8.0.0-1

65

潜水艦	型	隻數
潜水艦	山型	二二
潜水艦	山型	三五
	S M L 型	七〇
		二〇
		若干ナリト

ロ、配置

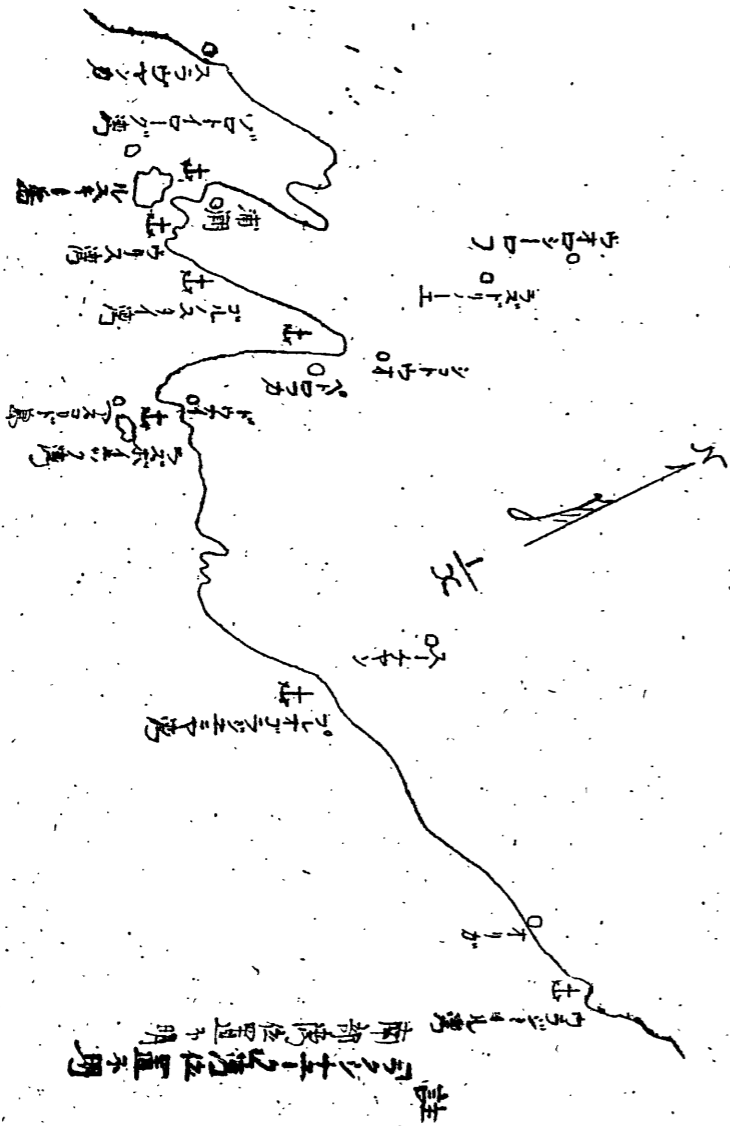
所在地	艦種	隻數 (隊)
浦潮	巡洋艦	一
	指揮艦	二
	驅逐艦	八
	第一潜水戦隊	(一)
	山型潜水戦隊	(一)
	山型潜水艦	(一)
ソロトイロク灣	MO型驅逐艦	二〇以上

S 3.8.0.0-1

66

C-0026

0276



S 3.8.0.0-1

68

南九州沿海地艦艇基地

ボリスヨイウリス湾	高速魚雷艇隊	約七五
ゴルノスタイ湾 (ウズリースキー湾西岸)	第六潜水戦隊	約五〇
ラズボイニク湾 (ドウナイ東岸)	M型潜水戦隊	(一)
ブレオブラジエニヤ湾	独立快速艇隊	(一) 一四
ウラジミール湾 (オリガ北方)	独立第二潜水戦隊	(一)
ラクシチニク湾 (位置不明)	快速艇隊	(一)
南部湾?	駆潜艇	二
ペトロフスク (ウズリースキー湾東岸?)		M型(一) I型(一)

S 3.8.0.0-1

67

C-0026

0277

外務省調査局第二課

極秘

寫

C.F.O.O.XK

極秘第九七號

昭和十九年五月三日

在牡丹江

領事 占屋 克正

同一信左記周課（配付）

陸三

東電 藤

在

特命全權大使 梅澤 美治郎 殿

「ソ」軍陣地ニ歸スル件

「ソ」軍陣地作業状況ニ歸スル某機體動別添送付ス  
本信寫送附先 外務大臣 哈爾濱總領事

別紙添附

昭和廿壹年 五月廿

19.5.2  
課一第

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格 B5)

S 3.8.0.0 - 1

69

C-0026

0278

極秘

寫

陣地作業狀況

各方面ニ於ケル陣地諸作業ハ依然閑散ニシテ特異ナル事象ヲ認メザルモ氣温ノ上昇ニ伴ヒ補々補修修裝作業増加シ北正面ニ於テハ築城資材(主トシテ木材)ラシキモノノ運搬ヲ認ムルニ至レリ

ニ大型特殊地雷(埋設式大型火焰放射器?)ニ付テ各正面陣地帯共昨年解水期以降地雷ノ使用増加ノ傾向アリ特ニ十一月以降大型特殊地雷?ノ埋設ヲ各地認ムルニ至レリ本大型特殊地雷ニ關シテハ未ダ其名稱性能等不明ナルモノ今次獨「ソ」戰ニ現出シ大ナル效果ヲ收メアリト謂フ埋設式火焰放射器ナラヌヤトノ疑モアリ將來更ニ増加スルモノト判断セラル  
現在迄ニ確認セルモノ少數ニシテ其ノ使用目的埋設方式等詳カズルモノ向地觀察ニ依ル埋設要領等概ネ左ノ如シ

1 使用目的  
主トシテ重要特火點(肉迫攻撃容易ナリト判断セラルモノ)ノ自

物用トシテ使用スルモノノ如シ

2 埋設位置

特火點附近(近キハ四〇米遠キハ二〇〇米)死角部(特ニ肉迫攻撃ノ突撃準備位置ニ相當スル地點)ニシテ現在障害物構築シアルモノニアリテハ壕又ハ地雷埋設地區ノ裏及屈曲部附近

3 數量及位置要領

イ一箇所平均約五箇(多キハ一〇少キハ三箇)  
ロ概ネ一列ニシテ間隔平均一五米(間隔大ナルハ約二米少ナルハ約一米)

4 埋設要領

埋設壕(直徑約〇、五米一〇、七米深サ約一米)ヲ掘開シ本大型特殊地雷ヲ入リ土ヲ覆ヒ枯草又ハ雪等ヲ以テ偽裝シ爾後該地雷ト特火點間ニ張線ス

所要時間ノ一例(四名ヲ以テ六箇埋設)約四時間

5 形状其ノ他  
東「ソ」ニ於テ現在迄ニ確認セルモノハ概キ圓筒型ニシテ中ニハ上  
部ノ稍々狭少ナルモノ直徑稍々大ナルモノ及握把部ノ形状等異リタ  
ルモノ等アリ黒色ニシテ遠望「ストロブ」ノ如シ重量約二〇―三〇  
グラム

S 3.8.0.0-1

72

C-0026

0280



外務省調査局第二課

極秘

寫

C.F.O.O.XK

極秘 第九九號

昭和十九年五月八日

在 牡丹江  
領事 古屋 克正

在 特派員 梅津 美治郎 殿

「ソ」軍演習状況ニ關スル件

「ソ」軍ノ各正面陣地帯ニ於ケル配備演習状況ニ關スル某機關  
別添送付ス

本信為送附先 外務大臣 哈勵賓總領事

別紙添附

昭和廿四年 五月廿

19.5.23  
第一課

同一信左  
文書

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0 - 1

73

C-0026

028:

極秘

寫

配備演習ニ付テ

各正面陣地帯ニ於ケル配備演習ハ獨「ソ」戦開始後小規模ナルモノヲ  
當時實施シアリ特ニ例年二月頃ニ於テ増加スルヲ例トス本年同期ニ於  
ケル此ノ種演習狀況ハ例年ニ比シ頗ル回数増加シ特ニ同一地點ニ於テ  
反復シ又其ノ部隊及演習地域モ逐次擴大セラルル等特異ナルモノアリ  
之カ原因ハ目下ノ處不明ナルモ、對日滿戰備ノ至嚴化ニ教育課程ノ一  
段階（即チ基礎教育ヨリ綜合教育ヘノ轉移時期ニ於ケル演習）ニ或ハ  
統一的ニ檢閲（？）等實施セルニアラスヤトモ解セラルル之等演習ノ精  
密ナル視察統計ハ「ソ」軍陣地編成守備兵力、守備區分、裝備等判斷  
ノ爲好資料タルヘシ

「莊」築城地帯ニ於ケル永久特火點ハ設堡地區守備隊隷下獨立砲兵機  
關銃（機關銃）部隊常時守備シアルモ野戰陣地及特火點地帯内  
ノ野戰陣地（掩蓋銃、砲座、散兵壕及輕特火點ノ一部等）ハ常  
時守備部隊ナク有事ニ際シ附近ニ駐屯シアル設堡地區守備隊隷

S 3.8.0.0-1

74

下獨立狙撃隊又ハ設堡地區ノ増加兵團ト判斷セラルル狙撃師團  
（旅團）蘇下部隊守備スルモノノ如シ而シテ擔任地區ニ對スル配  
備ノ訓練及擔任陣地ノ補修等ノ目的ヲ以テ實施スルモノヲ配備演  
習ト稱シ概ネ一ヶ月三―四回定時又ハ不時ニ實施ス  
但シ國境附近日滿軍視察下ニ於テハ兵營ニ於ケル準備多ク現地ニ  
於ケル演習八月一回程度ナリト

S 3.8.0.0-1

75

極秘

外務省調査局第二課

極秘第五號

昭和十九年六月十五日

在牡丹江  
領事 古岸克



記帳済

改三

支  
録

昭和十九年七月十四日  
加紙添附 同一信左記同機へ配付済

正

外務大臣 重光葵 殿

東「ソ」軍内情ニ關スル件

紙寫ハ「ソ」軍逃亡兵陳述ヲ蒐録シタル某機關報ナリ東「ソ」  
「ソ」軍軍紀ハ獨「ソ」戰ノ好轉ト隊内監視ノ強化トニ依リ一般  
ニ良好ナルモノノ如クナレ共兵員ノ素質ハ兵器操作ノ實情等ニ於  
テ窺ハルル如ク一般ニ低下ノ疑濃厚ニシテ設堡地區守備隊ニ比シ  
一般赤軍部隊ニ於テハ更ニ素質低下シアルモノト觀察セラルル趣

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0 - 1 76

ナリ

本信寫送付先 在滿大使 哈爾濱總領事

S 3.8.0.0 - 1 77

C-0026

0284

極秘

寫

最近東「ソ」軍内情 (能力甲、確度乙)

要旨

- 一、赤兵ハ二五才前後ノ青年約半數ヲ占メ全將兵ノ約六割ハ黨員ナリ
- 二、四三年初頭以來大「ロシヤ」人以外ニ「タタール」「モルダビア」「バシキール」「チュウワシ」「カサツク」等ノ小數異民族再ヒ國境警備ニ配置セラレ某部隊ニ於テモ三〇%ヲ占メアリ
- 三、政治教育ハ日課ニモ不拘一般ニ低調ナルモノノ如ク内務教育ハ月間ニ二三回小隊長ノ行フ政治教育ハ月間一回ノ程度ニ過キス
- 四、隊内黨員ノ一般赤兵ニ對スル指導力ハ強力ニシテ隨時一般兵ノ士氣鼓舞煽動等ニ任シ且黨員ノ若干ハ大隊特務課ノ密偵ノ任務ヲ帶ヒ將兵動向ヲ查察シアリテ軍紀志氣表面的ニハ良好ナリ
- 五、獨「ソ」開戦直後ノ越境逃亡兵多數ナリシニ鑑ミ小數異民族ニ對シテハ黨員中ニ監視員ヲ設ケ其ノ日常ヲ密ニ内偵シアルモノノ如シ
- 六、小數異民族ハ「スラブ」ニ隸屬ヲ余儀ナクセシムル「ボルセヴィズム」ニ對シテ大ナル反感ヲ抱キアリ

S 3.8.0.0-1

78

本文

一、隊内各組成状況

本名所屬第一中隊ニ於ケル各種組成左ノ如ク大隊全般ニ於ケル狀況モ概ネ同様ナルモノノ如シ

區別	民族	年齢	黨關係	兵役
第一中隊	大ロシヤ人	二〇才以下	共青員	現役
	ウクライナ人	三〇才以下	黨員	四〇
二〇一三〇	モルダビア人	四〇才以下	非黨員	召集
	バシキール人	四〇才以上	四二	六〇
	チュウワシ人			
	カサツク人 タタール人		五	

1 年令

最高四四才一最低一八才ノ間ニシテ二五才前後カ全兵員ノ約半數ヲ占ム

2 黨關係

S 3.8.0.0-1

79

全員再三ニ互リ入黨ヲ懇渾セラレ幹部ハ國境勤務員全般ニ對シ  
黨員乃至共青員ノ身分取得ニ依リ自負ト責任ノ加重ヲ自覺セシ  
事故ノ防止ヲシアルモノノ如シ

特ニ二〇才以下ノ赤兵ハ全部共青員ニ加入セシメラレタリ

### 三 小數民族ノ進出ニ就テ

越境逃亡續出ノ爲ニ獨「ソ」開戦後一時後方部隊ニ轉屬セシメ  
タル小數諸民族ヲ四三年初頭以來再ヒ國境線地區部隊ニ進出セ  
シメタルモノノ如ク本名ハ四三年末新編セラレタル部隊ナル爲  
此等小數民族ノ進出ノ時機ハ不明ナルモ從來小數民族ノ逃亡多  
キニ鑑ミ年少青年ハ其ノ憂ナカルヘントテ異民族中ヨリ比較的  
年齢若キモノヲ國境部隊ニ編入セル旨聞知ス

### 政治教育狀況

#### 1 概況

政治教育ハ小隊長ニ依リ行ハレ週三三―六時間ニシテ内務教  
育ハ毎朝大隊補佐官ニ依リ一時間實施スル如ク定メラレアリ

3

S 3.8.0.0-1

80

然レ共實際ハ小隊長ノ政治教育ハ月一回三時間程度、内務教育  
八月ニ二―三回程度ニ過キス

### 2 教育内容

政治教育ハ新聞ノ朗讀、時局解説乃至新命令ノ敷衍等ニシテ内  
務教育ハ部隊命令ノ示達ハ徹底等カ主眼ナリ

イ 伊太利、「スペイン」「フィンランド」等「ヨーロッパ」各  
地ニハ勞働爭議頻發シアリテ勞働階級ノ進出勝利目覺キモノ  
アリ

ロ 瀋洲國ハ日本帝國主義ノ植民地ナリ

ハ四四年二月二十三日「スターリン」命令ニ依リ赤兵一般ハ技  
術ノ向上竝ニ作業ノ強化ヲ要求セラレタリ

本名ノ記憶ニ依レハ技術ノ向上ハ兵器操作能力ノ向上竝ニ兵  
器修理能力ノ向上ヲ要求スル解説ヲ附セラレタルモノノ如シ  
一般ニ兵器操作不良ニ基ク兵器ノ破損相當多キモノノ如ク兵  
器ノ尊重ヲ不斷ニ強調セララルルモ十分ナラスト

4

S 3.8.0.0-1

81

四 隊内黨活動狀況

軍紀ノ維持竝ニ赤兵志氣ノ堅持ニ於テ共青員及黨員ノ貢獻極メテ  
大ナルモノアリテ赤兵一般ハ殆ト此等黨員ノ掌握下ニ在リ

1 隊内黨組織

一般赤軍部隊ノ隊内黨組織ト差異ナク中隊ニ黨「オルグ」大隊  
ニ黨委員會書記ヲ置キ定期乃至臨時ニ「ベセーダ」「ソフラー  
ニエ」等ヲ實施ス然レ共黨集會秘密裡開催セラレアリテ黨員以  
外ニアリテハ殆ト之ヲ窺ヒ得ス

隊内公債募集ニ關スル本名ノ陳述ヨリ窺フニ赤軍内共青同盟組  
織ノ地方委員會トノ横ノ連繫ハ設堡地區司令部共青委員會ニ於  
テ聯絡ヲ維持シアルモノノ如シ

2 赤兵集會

「スターリン」命令ニ應ヘ乃至ハ勞農赤軍意識昂揚ノタメニ中  
隊單位ノ赤兵集會ヲ大隊長命令ニヨリ適時實施ス  
本集會ニ於テハ通常大、中、小隊長演說ニ續キ黨員カ煽動演

說ヲ行ヒ非黨員代表モ演壇ニ立チ特ニ「スターリン」命令等ニ對  
シテハ赤兵ヨリ自發的ニ動議ヲ提出シタル形式ヲ似テ決議ヲ行フ  
事アリ

集會ニ先立チ黨員ハ赤兵ニ對シ殆ト命令的ニ「カクカクノ箇所ニ  
於テ全員拍手スヘシ」ト拍手乃至歡呼スヘキ箇所ヲ強制ス  
非黨員代表モ予メ準備セラレ道化芝居ノ一役ヲ與ヘラレ赤兵ハ大  
中、小隊長乃至黨員ノ煽動演說ニ對シ歡呼シ氣勢ヲ添ヘアリ

3 黨員活動

大隊特務課ノ密命ヲ帶ヒタル黨員數名中隊内ニ在リテ將兵ノ言動  
ヲ察シ之ヲ報告スルト共ニ共青員、黨員ハ日常生活ニ於テ常ニ  
兵ノ先頭ニ立チ決定的ナル指示ヲ與ヘ兵ノ行動ノ指導性ヲ把握ス

四 大隊特務課

設堡地區部隊ニ於テハ大隊ヲ末端トシテ設ケラレ統帥系統トハ全然  
別個ニ上級部隊特務課ニ直屬シ内務人民委員會部ニ隸屬ス  
本名ノ部隊ニ在リテハ大尉一名ト外ニ一二名ノ書記ヲ置キアルモ

ノノ如ク本名等ノ窺知セシ特務課ノ任務ハ前記黨員ノ諜報組織ヨリ將兵間ノ反革命、反軍思想者ヲ摘發シ司令部特務課ニ報告シ其指示ニ基キ隊長ニ對シ處罰ヲ要求スルモノノ如シ

六 隊内異民族對策

西送等ノ結果急速ニ充員ヲ要求セラレ再ヒ少數異民族ヲ相當量混入スルノ止ムナキニ到リタル結果前記年齡上ニ於ケル配慮ノ外ニ赤軍中ノ若干黨員ヲ以テ此等異民族監視員ニ充テ少數異民族ニ對シテハ特ニ監視ヲ嚴重ニ行ヒアリ尙赤兵一般ニ出入其ノ他ノ行動ニ關シテハ許可制設ケラレ其ノ狙トスル所ハ特ニ異民族ノ行動ヲ實質的ニ制限スルニアルモノノ如シ  
但シ其ノ何レモ表面上ニ於テハ異民族ヲ刺戟セサル如ク極メテ慎重ニ注意シアルモノノ如シ

七 赤兵動向

一 大「ロシヤ」人

本名ハ「モルダビヤ」人ナル爲ニ不明ナリ

2 少數異民族

本名ノ陳述ニ依レハ少數異民族ノ九〇%ハ反「ボルセヴィキ」的思想濃厚ナリ  
其ノ原因ハ言語、風俗、習慣ニ對スル急激ナル改廢ノ強制ニ基ク反感竝ニ民族ノ將來ニ就テ何等希望ナキ點ヨリ内心ハ殆ト「ボルセヴィキ」的ニシテ「ボルセヴィキ」黨ト「スラブ」主義ヲ同一視シアリ、日獨何レニセヨ外國ニ依ル「ソヴェート」並ニ「ボルセヴィキ」ノ打倒ハ「スラブ」ノ支配ヨリ脱シ得ル希望ヲ異民族ニ與フルモノナリト信シ最近ノ「ソ」聯ノ優勢ニ對シテハ失望スルモノアリト  
大「ロシヤ」人トノ間ノ民族的摩擦ハ何等認めラレサルモ大「ロシヤ」人ハ内心ニ少數民族ニ對シテハ侮蔑觀ヲ抱キアリ之カ爲ニ眞ニ民族ヲ越ヘテノ親密ヲ得ルニ到ラズト

八 赤兵素質

嚴罰主義ト教育ノ徹底トニ依リ赤兵ノ軍紀維持狀況ハ相當良好ナ

C-0026

0288

ルモノノ如ク確詰一ヶノ窃取ニ對シテモ銃殺ヲ以テ望ムト告ケラレ  
 アリテ逃亡防止ニ關シテモ越境逃亡者ニ對スル滿洲側ノ取扱ヒ實狀  
 ヲ逆宣傳シアルカ爲他隊ニハ二、三國內逃亡ノ事實アルヲ聞知セル  
 モ本名中隊ニ於テハ殆ト軍紀違反ノ事項ナシ

C-0026

0289



外務省調査局第二課

秘

秘第一四二號

昭和十九年六月二十二日

在牡丹江日本領事館

領事 古原 克正

同一信左記局課へ附  
支控課

寫

在柳洲國  
特命全權大使 梅津 美治郎 殿

「ソ」御逃亡兵調査ニ依ル「ソ」軍内政治機構ニ關スル件

本件ニ關シ某方面ヨリ入手セル情報ニ依レハ一九四三年六月國家  
保安人民委員部ノ獨立ニ伴ヒ同年九月從來ノ特務部ヲ廢止シ右人  
民委員部ノ一部ナル防諜部本部ヲ中核トシ軍隊内ニ防諜部  
*propaganda office* 一ヲ設置シ政治部並ニ黨委員會ノ系統トハ  
全然別個ニ軍内ニ於ケル反政權及反軍主義思想ノ摘發、軍紀逆反  
者等ニ逃亡企圖ヲ有スル者ノ根柢、其ノ他將校以下ノ監視ニ任

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0 - 1

87

軍内ノ警察其ノ他人事務ニ關シテハ相當ナル準備ヲ附與セラレアル  
カ如シ

尙軍内政治組織ノ概要別表第一、第二ノ如シ御參考迄此般報告ス  
本信寫差付先 外務大臣 陸海軍省

S 3.8.0.0 - 1

88

C-0026

0290

寫

別表第一

師團政治組織一覽表

黨委員會	長上級中尉及ソレ以上 委員(無屬部隊黨「オル グ」カラノニニ名ヨリ 成ル)	共育同盟委員會	長政治課長代理(共育 同盟ニ關スル)(上級 中尉及ソレ以上) 指導者 將校	赤兵ノ家(或ハ俱樂部 長中尉及ソレ以上)	軍藥小隊	長 將 樂手下士官及兵 人員長以下一三一〇名	移動(映畫係 長 軍 曹)	常設(映畫係) 長 軍 曹	無線電信係 長 將 校	圖書館 主任 軍 曹	寫真師(赤兵)	編輯(編集委員 將校三一五名)	新聞技術書記 將 校	印刷所 長 將 校	暗號植字工 曹長(赤兵)一五名	新聞檢閱官 上級中尉及ソレ以上	宣傳煽動課 長上級中尉及ソレ以上 師團ノ講師上級中尉ソレ以上三一五名	師團新聞編輯長 長上級中尉及ソレ以上	人事課 長上級中尉及ソレ以上	師團政治部 部長少佐及ソレ以上 副部長大尉及ソレ以上
						發動機手(赤兵)	運輸長(赤兵)	映畫機手(下士官)	電機機手(赤兵)	映畫機手(下士官)	電氣手(赤兵)	無線電信手(下士官)								

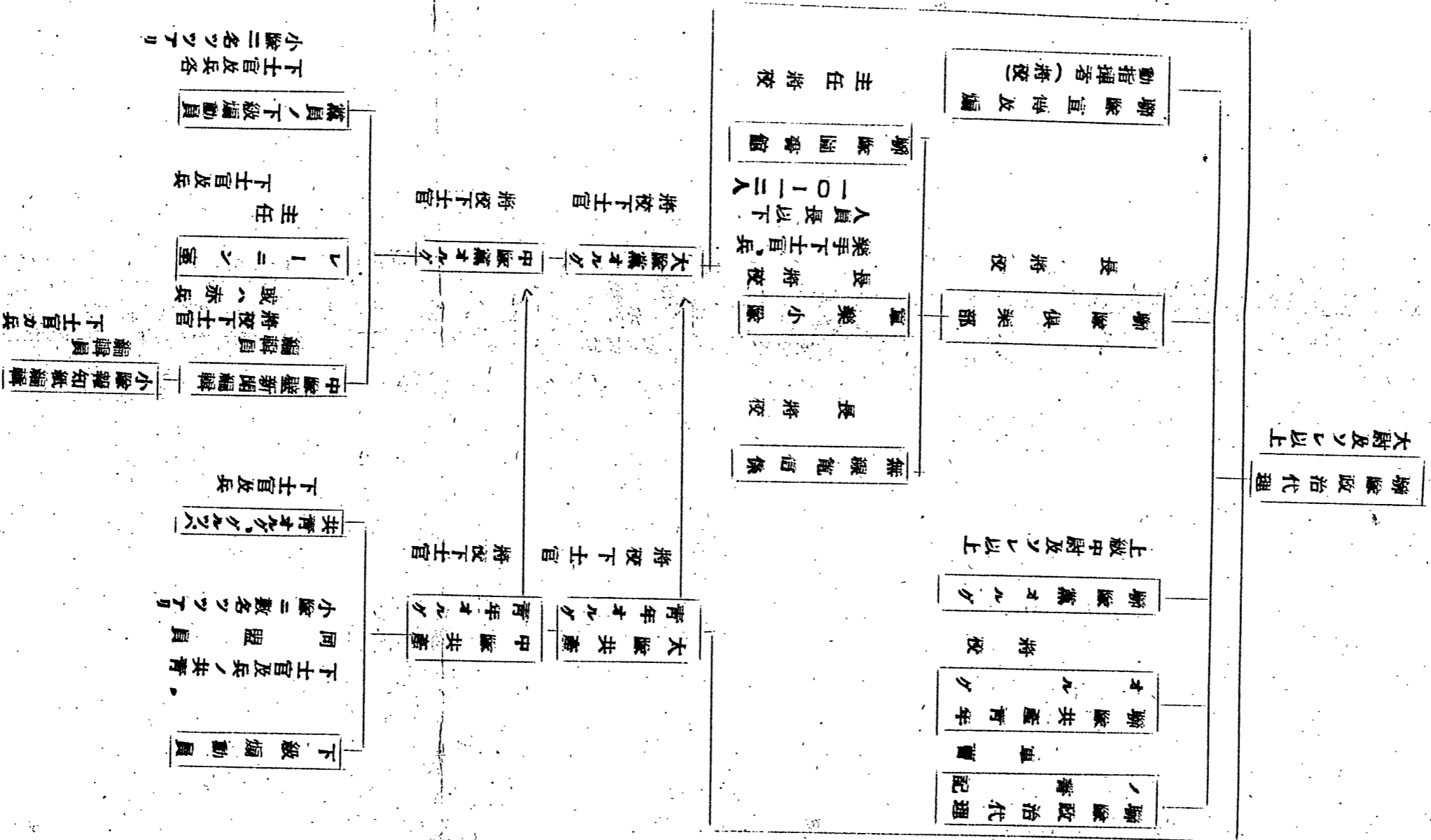
C-0026

2023

寫

別表第二

聯隊政治組織一覽表



S 5.8.0.0-1

30

外務省調査局二課

極秘

寫

極秘第一四五號

昭和十九年六月三十日

在牡丹江

領事 古原克正

在滿洲國

特命全權大使 梅津美治郎 殿

琿春正面ニ於ケル航空機飛翔狀況ニ關スル件

C 8.0.0.14  
A 1.0.30-44

六月十三日以降約十日間琿春正面ニ於ケル米國製陸軍機ヲ含ム「ソ」  
「軍大型爆撃機」ニ哨戒機（延機數約六二）ノ飛翔狀況ニ關シ某所  
報ニ據レハ斯ノ現象ハ第二戰線ノ展開後六月二十九日「ソ」軍機二  
機東寧正面ニ於ケル越境偵察又春化正面ニ於ケル滯留偵察頻繁ナル  
トニ關聯シ「ソ」聯ノ優位ヲ誇示シ且我ニ對スル偵察並ニ示威的行  
動ヲモ多分ニ含ミアルモノト判斷セララル趣尙委細別紙寫ニテ御承

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格 B5)

昭和十九年七月拾四日接受  
別紙添附

改三  
封票

知相成度此段御参考迄報告ス  
別紙中「理由ノ、證據數別表」ハ省略ス  
本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

S 3.8.0.0-1

92

S 3.8.0.0-1

91

C-0026

0293

極秘

寫

環春正面航空機、飛翔活況

觀察

一 今回ノ米國製機ヲ含ム大型爆撃機並ニ哨戒機ノ飛翔活況ナリシハ東「ソ」第二十五軍ト太平洋艦隊聯合演習近ク開始セララルトノ某情報ニ鑑ミ之トノ關聯性ヲ有シ大規模ナル陸海空聯合演習ヲ實施セルニ非ラヌヤト思考ス

理由

- 1 十三日以降二十二日ノ間浦潮及「ボシエート」近海ニ於テ目撃セル艦艇數別表ノ如クニシテ太平洋艦隊ノ主力艦影ヲ認メス
- 2 航空機ハ太平洋艦隊所屬第六飛行旅團又ハ第一六飛行旅團ノ一部參加セシメタルモノノ如ク哨戒機(MOP)及連絡機(YR)ハ主トシテ基地上空ノ哨戒並ニ連絡ニ任シ其ノ飛翔方向ハ「ウグロ」ワヤ」或ハ日本海方面ニ没シテリ
- 3 「ダグラメ」<sup>20</sup>ハ米「ソ」連絡空路ニ依ル接「ソ」機ノ一部東「ソ」空軍ヘ補充ハ屢々傳ヘラレシ所ナルモ今回本機ノ出現飛翔狀

S 3.8.0.0-1

93

2

況ヨリ觀察スルニ浦潮附近航空基地ヨリ飛翔セル如ク觀察セラル而シテ米國製陸軍製式機ナルニ鑑ミ第三三飛行師團所屬ナラヌヤト推測スルモ過去ニ於ケル第二五軍太平洋艦隊ノ聯合演習ニ於テ當正面ニ波及スルカ如キ飛翔ハ未タ曾テ目撃セシコトナシ

S 3.8.0.0-1

94

C-0026

0294

外務省調査局第二課

秘

寫

C 750.44

秘第一五五號

昭和十九年七月八日

在牡丹江

館 津 美治郎 殿

古 屋 克 正

同一信左記局課へ配付済  
政務局第三課  
文書課

昭和十九年七月拾九日  
別紙添附

在滿洲  
特命全權大使 津 美治郎 殿

東「ソ」赤軍ニ於ケル政治教育ニ關スル件

本件ニ關シ某機關ヨリ入手シタル情報別紙爲ノ由何等御参考迄送  
付ス

本信寫送付先 大東亞大臣 外務大臣 哈爾濱總領事

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

95

C-0026

0295



「ソ」赤軍ニ於ケル政治教育ノ一端（能力甲、能力乙）  
政治教育ノ状況

東「ソ」租界某部隊ニ於テハ左ノ如ク政治教育ヲ實施シアリ  
教育回数 一ヶ月一五―二〇回毎回二時間

註 實施計畫ハ六日間ニ五回ニシテ教育ナキ時ハ補習乃至  
作業ヲ實施セシメタル

教育状況 國際情勢、獨「ソ」戰況、「スターリン」命令ノ解説  
「ロヂヤ」史、其ノ他新聞朗讀

教官 中隊長、小隊長  
註 各國ノ戰況「ニュース」ハ右教育時間外ニ毎日一五乃至  
三〇分宛實施ス

本年三月下旬以降同五月中旬ノ間ニ於テ部隊追撃砲小隊長「ジク  
ノフ」中尉（本名註、國際情勢ニ通曉シ部隊ノ政治教育ヲ殆ト擔  
任ス）ノ實施セル講話ノ概要ヲ述ブレハ左ノ如ク

(1) 日本ノ現況

⑧ ⑨

⑩ ⑪

註 赤兵ノ時局ニ對スル敵視乃蓋關心ノ度ハ最近一般ニ高マリ  
テ極端ナル所謂宣傳の事柄ハ却ツテ赤兵ノ不信ヲ招クヲ以  
テ從來（一九四一年頃）ノ如ク極端ナル反日的宣傳教育ハ  
最近實施シテラサレカ如ク

イ 石油ノ不足

「ソ」聯ハ從來日本ニ北緯太ノ石油ヲ提供シテリモ、現在ハ日  
本トノ交渉ヲ一切斷テ之ヲ輸出ヲ禁止セルヲ日本ハ國內生産ト  
「ソ」聯ヨリ輸入セシ若干ノ「ポストツク」トニヨリ辛クシテ賂ヒ  
アルモ將來ハ之ヲ補給ニ一大支障ヲ來スヘシ

ロ 日「ソ」關係

日本ハ國際的關係ニ於ケルノミナラス一般般局ニ於テモ不利ナ  
ル立場ニテ活動シテ次後類シツツアリ  
之ニ反シ「ソ」聯ハ既ニ三年ニ亘リ戰爭ヲ繼續シアルニ不拘國  
力ハ依然トシテ衰退セヌ事ニ強化サレアルヲ以テ日本ハ「ソ」  
聯ニ對シ脅威ヲ感シアリ

然レ共日本カ米英支三國ト戰ヒツツアルモ尙且對「ソ」作戰準備ヲ進メアルハ侮ヲ難キモノアリ之ヲ察視スルハ極メテ危険ナリ

2 日本國民ハ元來好戰國民ナルノミナラス獨逸ト同盟條約ヲ締結シアルヲ以テ獨逸ノ態度ニ依リ不意ニ極東ヲ進發スルヤモ計リ難シ

「ヒツトラ」ハ不絶日本ヲテ「ソ」ニ侵入セシムルニシテ獨逸カテアリテ「ソ」ニ侵入スルニ「ソ」附近迄進軍シ「ソ」ニシテ「ソ」ノ一角ハ占領セシタル時日本ツモ滿中ニ引入レントセリ然レ共日本ハ支那トノ戰争ニ疲弊シアルヲ以テ赤軍ノ實力ニ怖レテ「ソ」ニ侵入セシムルニシテ「ソ」ニ作戦ヲ開始ス而シ日本ハ對支作戰ヲ終了セハ必ズ「ソ」ニ作戦ヲ開始スルナラシ即チ日本ハ依然トシテ「ソ」ニ「ソ」以東占領ノ意圖ヲ有シアリ

3 日本ハ常ニ我カ國境ヲ侵犯シテ「ソ」ニ侵入ス他ノ地

區ニ於テモ日本ノ不法越境ハ枚舉ニ遑無キ状態ナリ其ノ一例ヲ舉ケレハ左ノ如シ

イ 日本兵約一ヶ中隊ハ某地ニ於テ越境ヲナシ「ソ」陸兵ヲシテ射撃セシムルハ「ソ」陸兵ノ行爲ニ出テ「ソ」陸兵ヲ

彼等ハ常ニ開戦ノ動機ヲ求メアリ

ロ 一九四二年「ソ」日本ハ滿洲近海ニ「ソ」艦隊ヲ駐

沈「ソ」艦隊ニ「ソ」艦隊アリ當時「ソ」艦隊局ハ日本ニ嚴重抗議セシニ日本ハ其ノ責任ヲ回避セシメ「ソ」艦隊ヲ退去セシ

以上ノ如ク日本ハ開戦ノ企圖ヲ有シアルヲ窺取セラルヘシ

尙之ハ彼等カ國境地帯第一線ヨリ軍隊ヲ撤退セシメサル事

實ニ後述スルモ明カナリ

(4) 被「ソ」物資ニ就テ

我々ノ同盟國タル米英兩國ヨリ被「ソ」物資ハ兵器、被服、食糧等相當多數ニ達シアリ

現ニ吾々ノ常用シアル軍糧、毎日ノ食用ニ供シアル米、豆、蕎麥





獸脂、砂糖、鹽、小麥、カルフサー（糖結）牛肉罐、粉末、大豆等  
ナ米國ヨリ補給ヲ受ケアル外兵器等多數アリ  
又同様ニ一九四二年ニハ英國ヨリ食糧、軍靴、軍服、外套（黒色羅紗）  
等ノ物資ノ援助ヲ受ケタリ

二 赤兵ノ動向

1 米「ソ」關係

「ソ」聯ハ米國ヨリ接「ソ」物資ヲ仰キテ一九四三年ニ受ケタ  
ル物資ハ約一六〇隻（ト）ノ數ニ達セリ  
而シテ戰後之ハ償還ニ當リ米國ハ「ソ」聯ニ凡ユル物資ノ要求ヲ爲  
スヘキハ必然ナルヲ以テ「ソ」聯國民ハ戰後約三ヶ年ハ現在ノ如キ  
苦難ヲ味ハハサルヘカラスト爲シテリ

2 日「ソ」關係

日「ソ」戰間ニ聯シテハ幹部ハ日奎現ニ米英支三國ト戦ヒ疲弊シ  
アリテ「ソ」聯ニ對抗スル實力ナシト語リ或時ハ日本ハ對「ソ」戰

ノ準備ヲ進メ何時極東ニ進攻スヘキヤ計リ知レヌニ付油斷スヘカ  
ラストモ語リ牙盾ノ點多キ赤兵ハ一般ニ「日本ハ現在「ソ」聯ニ  
進攻スルコトナカルヘシ然レ共日「ソ」戰ハ不可避ナリト」觀察セ

アリ

尙東「ソ」ハ單ニ濠地ト野地防主ノミニテ何等資源位置ナシトテ  
之ヲ睥視シテアリ彼等ノ中ニハ演習時不平等唱ヘ日本カ若キ極東ヲ欲  
セハ流血ノ慘ヲ招カヌシテ之ヲ日本ニ與ヘルヲ得策シヌルヤ等語ル

塞アリト

C-0026

0298

寫 秘

外務大臣調査局第二課本

公領秘第一八九號

昭和十九年七月二十日

在 哈 爾 濱

總領事 宮 川 松 夫

在 滿 洲 國

特命全權大使 梅 津 美治郎 殿

光工作用自動車ノ「ソ」人衝突事件ニ關  
スル件

本月八日正午頃當地滿洲警察尾行車ハ在哈「ソ」總領事館自動車ヲ尾  
行中「ソ」人老妻「マトコ」(六十六才孤獨ニシテ身寄ナシ)  
ト衝突同人ハ全治約三週間ノ打撲傷ヲ負ヒタル事件發生セリ警察側ハ  
直ニ附近病院ニ入院加療セシムルト共ニ關係官立合ノ上實地檢査ノ結

在哈爾濱日本帝國總領事館

昭和十九年八月拾壹日受

同一信左記局調(配付済)

取三

文書

S 3.8.0.0-1

102

果同人ノ老衰ト不注意ニ基クモノナルコトヲ確認セルカ「ソ」側ノ儀  
先ヲ制シ治療費並ニ金供送ノ生活費ヲ支給シ同人トノ間ニ直接示談ニ  
スルコトトナリタリ

「ソ」總領事館ハ十二日ニ至リ之ヲ探知シ「サフチエシコ」代理秘  
書及「ボイスコフ」ノ兩名ヲ病院ニ派シ見舞ヒメタリ其ノ際「サフチ  
エシコ」ハ種々事情聴取ノ上領事館ニ對スル希望等ヲ質シタルカ同人  
ハ滿備ノ好過ヲ謝シツツ何等領事館ニ依頼スルコトナント申出ヲ拒否  
シ其ノ態度強硬ニシテ領事館ノ威信ヲ著シク失墜セル儀様ナリ  
尙同人ノ語ル所ニ依レハ勸告配給問題ヲ繰リ一放下層「ソ」人ノ同  
類ニ對スル信頼薄弱ニシテ不滿ヲ抱キ居ルモノ多岐アルモノノ如シ

右御參考迄報告ス

本信寫送付先 大東亞大臣、外務大臣

S 3.8.0.0-1

103

在哈爾濱日本帝國總領事館

C-0026

0299

極秘



調査局第一課

極秘第三號

昭和十九年七月二十四日

在黑河

領事代理 三井 義

外務大臣 重光 葵 殿

「ソ」聯ノ動靜調査ニ關スル件

本件ニ關シテハ昭和十九年七月七日附極秘第一號ヲ以テ報告申進シ置キタル處同報告別表ニ不備ノ點アリタリヲ以テ別添ノ諸表再送スルニ付御進補相或度此致申進ス

本信寫送付宛 在滿大使

昭和十九年八月卅日 接受  
別紙添付

記帳済

同一信左記局課へ配付済

文書課



S. 3.8.0.0-1

104

在黑河日本帝國領事館

武装諜者出現状況表

台計	烏雲	遜克	呼瑪	鷗浦	漠河	嫩江	孫吳	瑗瑛	地方別	
									月	別
一三	四			二				七	四	月
一一	四			四	三				五	月
二六			二	一				一三	六	月
										摘
										要

在黑河日本帝國領事館

S. 3.8.0.0-1

105

C-0026

0300

合計	烏雲	遜克	呼瑪	鷗浦	漠河	嫩江	孫吳	凌源	地方別	
									月	別
三	一							二	四	月
五		一			一				五	月
一				一					六	月
									摘	
									要	

被拉致事件表

在黑河日本帝國領事館

S 3.8.0.0-1

107

合計	烏雲	遜克	呼瑪	鷗浦	漠河	嫩江	孫吳	凌源	地方別	
									月	別
七					一				六	四
二				一					一	五
										六
									摘	
									要	
									内足跡ノミノモノ七ヲ計上セリ	

入蘇事件状況表

在黑河日本帝國領事館

S 3.8.0.0-1

106

C-0026

030:

合 計	烏 雲	遜 克	呼 瑪	鷗 浦	漠 河	嫩 江	孫 吳	凌 瑯	地方/月別	
									領土	領空
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	種別 四月
										五月
										六月
摘										
要										

領土領空侵犯事件表

在黑河日本帝國領事館

S 3.8.0.0-1

109

合 計	烏 雲	遜 克	呼 瑪	鷗 浦	漠 河	嫩 江	孫 吳	凌 瑯	地方/月別	
									領土	領空
✓				✓						四月
										五月
										六月
摘										
要										

不正越境入滿狀況表

( ) 内数字ハ内偽裝逃亡者ヲ示ス

在黑河日本帝國領事館

S 3.8.0.0-1

108

C-0026

0302

合計	烏雲	遜兒	呼瑪	滿浦	漠河	嫩江	孫夾	愛琿	地方
									月別
									四月
									五月
									六月
									摘
									要

不法射擊事件

在黑河日本帝國領事館

S 3.8.0.0-1

110

C-0026

0303

秘報

秘報第一七五號

昭和十九年八月三日

在牡丹江

領事

古原京

正

同一信局局長への付達  
政務局第三課  
文書課

昭和十九年九月 七日接受

在滿州國

特命全權大使 山田 乙三 殿

「ソ」聯逃亡兵ニ關スル件

某所報ニ依レハ獨「ソ」開戦後三ヶ年ニ於ケル逃亡入滿「ソ」兵ノ  
總數ハ二九五名ニシテ戦前三ヶ年合計一五名ニ比スレハ多數ニ上リ  
アルモ時間的ニ之ヲ觀察スレハ第一年ニ於テ一八九名(六四%)ニ  
達シ第二年以降戦局ノ好轉ト逃亡防止對策ノ成功トニ依リ遂次減少  
シ第二年ニ於テハ八八名(約三〇%)トナリ第三年ニ於テハ僅ニ一  
八名(六%)ノ月平均ニ五名ニ過キス而シテ質的ニ之ヲ觀察セハ四年

(日本標準規格B5)

在牡丹江日本領事館

S 3.8.0.0-1

111

制卒業以下五五%、七年制卒業以下約八〇%ニシテ教育程度モ低ク  
且逃亡動機モ純然タル反「ソ」的思想ニ基クモノハ殆ト無ク大部分  
意志薄弱者ニシテ素質劣等ナリト

右何等御参考迄此般報告ス

本信竊送付先 外務大臣 台端實總領事

S 3.8.0.0-1

112

C-0026

0305

公債格二二三出

昭和十九年八月十八日

在哈爾濱

通譯 百川 松夫

政務局第三課

在滿洲國

特命全權大使 山出 乙三 殿

赤軍ノ崩壊解除ニ關スル件

當國駐報者ノ報告ニ依レハ當地「ソ」聯軍領事館ハ莫新科ヨリ左ノ如  
中滿報ヲ入手セル趣ナリ  
「ソ」聯邦政府ハ今後二ヶ月以内ニ獨逸軍ハ降服スヘント決意シ其ノ  
後ニ於テ政府ハ一部軍隊ノ崩壊ヲ解除スル方針ナルカ事關ハ日本ヨリ  
ノ脅威未タ消滅セサル現在假令其ノ一部ナリトモ之ヲ解除シ難シトテ

在哈爾濱日本帝國總領事館

S 3.8.0.0-1

113

C 3.8.0.0-14

全面的ニ反對シ政府ノ真意ヲ疑ヒ居レリ  
即チ「ソ」聯軍本部ハ國境監視ニ於テ不必要トナリタル軍隊ヲ滿  
ソ」國境ニ配置シテ其ノ防備ヲ強化シ以テ極東ニ於テ長期ノ平  
和ヲ確保セントノ意圖ヲ有シ居ルモノノ如シ

右報告ス

本領事館送付先  
大東亞大臣、外務大臣

S 3.8.0.0-1

114

在哈爾濱日本帝國總領事館

C-0026

0306



外務省調査局第二課

極秘

寫

極秘第一九〇號

昭和十九年九月三日

在牡丹江

領事 古屋克正

在滿洲國

特命全權大使 山田乙三殿

東寧正面「ソ」軍情ニ關スル件

本件ニ關シ現地某機關ヨリ聽込ミタル處ニ據レハ東寧正面ニ於ケル「ソ」軍ノ動向最近頃ニ活潑化シ八月下旬ニ至リ地本部隊教育訓練ノ如キハ從來ノ約二倍ヘ旬別統計上ニ達シ殊ニ迫撃砲及機關砲操作訓練熾シニシテ就中「トーチカ」内ヨリスル備砲實彈射撃及陣地配備演習等極メテ頻繁ナリト又航空訓練ニ於テモ連夜ニ亙ル照空訓練ト相俟テ一段ト活況ヲ呈シ「<sup>2</sup>」型機ニ依ル國境線飛行

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

115

第一線地區ニ於ケル離着陸及落下傘降下ハ第二線地區ニ於ケル大型機ノ飛翔等々注目スヘキモノアリナ八月下旬中ノ目視機數ノミニテモ延四〇〇機ヲ算シアリ該正面鐵道運行亦激増就中油槽車ノ運行活潑ニシテ旬間之カ北行六六輛南行五八輛ヲ認メタリ  
尙同期間中新ニ高射砲一〇門ノ確列布置シアルヲ發見スル等右ハ何レモ最近稀ニ見ル特異現象ニシテ以上ハ教育訓練ニ過キサルモ自軍ノ優位ヲ誇示シ且我方ニ對スル示威的行動ヲモ多分ニ含ミアルモノト判斷セラレ世界情勢ノ推移ニ伴ヒ「ソ」軍ノ動向ニ關シテハ嚴ニ注意ノ要アリト謂フ右何等續參考迄此段報告ス

本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

S 3.8.0.0-1

116

C-0026

0307

極秘

寫

極秘第二〇一號

昭和十九年九月二十二日

在牡丹江

領事 古屋京

政務局第三課

文書課

在滿洲國  
特命全權大使 山田 乙三 殿

「一」港國境警備隊内情ニ關スル件

確實ナル筋ヨリノ情報ニ據レハ最近「一」港國境警備隊（内務人民  
委員部軍隊）ノ軍紀ハ著シク弛緩シアルモノノ如ク軍當局ニ於テハ  
國境警備隊勤務ノ履行不確實、職務怠慢及事故頻發等ヲ指摘シ之カ  
刷新向上ニ腐心シアル趣ナリ右ニ關スル主要事象ヲ掲レハ  
「一」犯罪ハ主トシテ竊盜（食糧）無斷外出、飲酒喧嘩、兵器取扱不良  
ニ因ル妄發事故、逃亡、立哨中睡眠等ノ普通犯罪以外ニ抗命上官

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0 - 1

117

侮辱等相當數ニ上リ而モ幹部黨員ノ犯罪數カラス、之カ爲嚴罰（  
降等）及政治教育ノ強化等ヲ以テ臨ミアルカ如シ  
二非露西亞人兵士特ニ「カザン」人兵士ニ對スル政治教育ノ弱化作  
指摘シ之カ強化向上ヲ策シアルカ軍内小數民族出身兵士ニ對スル  
動向ノ一端トシテ注目ヲ要ス  
對策次ノ如シ（命令要旨）

- （一）非露西亞人出身兵士ノ數ノ調査
- （二）左記課題ニヨリ非露西亞人兵士ヲ區別セサル懇談會ノ實施
- 「スターリン」民族政策、赤軍ハ「ソ」聯邦民族ノ一大家族ナ

祖國戰下ノ中央亞細亞民族

- （一）露語ヲ確實ニ習得シアル非露西亞人兵士全員ニ依リ日常露語研  
究ノ特別教育實施
- （二）戰友愛ヲ涵養シ兵士間ノ民族的反感ヲ助長スヘキ諸因（一）ノ  
根絶（主トシテ將校ニ對シテ要求ス）

S 3.8.0.0 - 1

118

等々ニシテ以上ハ断片的ナレトモ「ボリシエビキ」民族政策ノ片  
鱗ヲモ窺知シ得ヘシ

右何等御参考迄此段報告ス

本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

S 3.8.0.0-1

119

C-0026

0309

昭和拾九年十月廿五日接受

極秘

寫

極秘第二二八號

昭和十九年十一月十一日

在牡丹江

領事 古 屋 克 正

同一信左記局記(附付済) 政務局第三課 文書課

在滿洲國

時命全權大使 山 田 乙 三 殿

「ソ」聯逃亡士官ニ關スル件

十一月四日東京正面ヨリ親境入滿ナル「ソ」聯逃亡士官「イグナ  
イトフ、ニコライ、アレクセエウイチ」ハ示獨立機關第三〇大  
隊第三中隊長ニシテ上級中尉ノ階級ヲ有シアルハ最近諸情報ノ推  
移ニ伴ヒ斯種事件漸減ノ趨勢ニ在ル折柄珍クシキ事象ニシテ右ニ  
關シ現地某機關ニ於ケル取調ノ概要ヲ撰記スルハ次ノ如シ  
一 身 上

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

120

姓 名 イグナートフ、ニコライ、アレクセエウイチ  
人 種 大ロシア人  
生年月日 一九一三年六月二十六日(三二才)  
出生地 「アルロイ」地方「サルトン」區「カルタイタ」村  
黨 籍 一九四四年十月二十八日黨員籍ヲ剥奪セラル  
所屬部隊 在「ウオロシエフ」第二五軍団下屬第四〇五聯隊第  
二大隊 中隊長

三家庭ノ状況

養 父 イグナートフ、アレクセエイ、イワノウイチ(約五〇才)  
養 父 ミクシン、ワレリ、イリツチ  
實 母 (一九一四年世界大戦時戦線ニテ没)  
實 母 イグナートフ、アレクサンデル、フアインチナ(四八才)  
内親ノ妻 エカテリナ、ユーナ、サタエリエウチ(三八才)  
養 子 ウイチエヌラフ(五才)  
養 女 アーラ (七才)

S 3.8.0.0-1

121

註

妻は「妻子養女」ハ「ウオロレー」市内ニアリ「エー  
ナ」ハ再婚セルモノニシテ向人ノ養育シアル子、女ハ實子  
ニアラス先夫ノ子ナリ「エーナ」ノ父ハ舊北鐵道職員ニ  
シテ北鐵道收時「ソ」領ノ直領ニ反シ本名ノ隠匿セル「日  
本領ノ職人」心共ニ必スシモ時ニハ「ウオロレー」トノ關係ヲ  
漏ラセシ「エーナ」以テ投獄セラレ在ニ至ルモ行方不明ナリ「  
エーナ」ノ弟「同族所屬」反政府分子ノ名目ニテ逮捕セラレ  
目下「ピロビジャン」ニ強固ニ關連者トシテ就勢中ナリ

馬略 歴

- 一九二一年―二七年 「カルナイター」小學校ニ就學
- 一九二七年―二九年 實業ニテ營業ニ従事
- 一九二九年―三六年 「アルメイ」地方會館出ニ選出夫トシテ就  
務
- 一九三六年十月 特別陸軍軍醫第三四聯隊(當時「ブマイ  
ロフカ」ニ駐屯)ニ入隊

S 3.8.0.0-1

122

- 一九三六年 十月 本人ノ希望ニヨリ「ブマイロフカ」聯隊學校  
(當時約二〇〇名收容)ニ入校
- 一九三七年 十月 同校卒分隊長(軍曹ノ階級)ニ任命サル
- 一九三八年十一月二十九日 在「カトー」メシカ「少尉養成所」ニ入所(當時  
約五十名ヲ收容)ニ現存セユ
- 一九三九年六月十三日 少尉ニ任命サル
- 一九三九年六月―四年二月 獨立三〇〇大隊第五小隊長
- 一九四一年二月―四年六月 「フェイスルツク」大隊副官係ニ任命サル
- 一九四一年 六月 獨「ソ」戦開始時「エイス」大隊作樂隊  
長ニ任命サル

- 一九四一年九月八日―四年五月 獨立三〇〇大隊第三中隊長
- 一九四四年 五月三日 内務ノ妻「エーナ」カ政治的容疑者ナル父、弟  
ヲ有セル故ヲ以テ關係者トシテ在「ウオロレー」  
「ロフ」ニ監禁人等ニ出頭ヲ命ゼラル
- 一九四四年五月十三日 二重軍人事務ニ出頭時調査訊問ヲ受ケル後

S 3.8.0.0-1

123

在「ウオロシーロフ」遺骸第四〇五號隊ニ轉屬  
ヲ命セラレ「ウオロシーロフ」同部隊ニ到着シ  
現在ニ至ル

同逃亡入捕ニ至リタル動機及原因

イ、衣食住ニ對スル不潔

ロ、「スコーリン」艦政ニ對スル不潔

等ヲ供述シテアリ著シクソノ動機原因不鮮明ナリシモ、後述ノ如  
ク供述ヲナセリ

○將校トシテ國境地帯ニ逗留服務セタルモ其將本性其他身分ニ對スル  
不潔(主トシテ清潔ニ關セサル衣食住點)ヲ痛感セリ

○本名ノ職量力等ヲ以テセハ或ハ滿洲日本内ニ於テ更ニヨリヨク生  
活ヲ爲シ得ルヤモ知レストノ目信

○滿洲利権其他ニヨリ他國ヨリ不潔ニ注目視セラレアリタル事  
更「ソ」軍内情ニ關スル本人ノ供述

兵ノ素質

イ、目下十七才ノ兵各所ニ散置セラレアリ  
ロ、津部ノ職量力等ニ關シテ其第三中隊將校ノ大部ハ高等小  
學校ヲ修了シアラズ

ハ、兵ニシテ共產黨ノ如何ナルヤ知ラサルモノ多シ

ニ、二五人編隊編隊下在「ウオロシーロフ」某聯隊長ハ部隊  
番號ヲ本名忘知シアリ「バスキエチエフ」大佐ハ二十六  
オニシテ該聯隊長格何レノ職務ヨリ之ヲ考案スルモ大佐トシ  
テノ力量ヲ有セスト各級職ヲ懸且ツ「ソ」聯隊長稱號ヲ有  
スル故ナルヲ以テ拔擢セラレタルモノナルヘシト  
本名ハ中尉ヨリ上級中尉ニ定年二十年ヲ要スル處一ヶ年ニ  
テ昇進シ將校トシテノ成績ハ自他共ニ良好ナルヲ認メラレ  
アリタリト稱シアリ

2、囚人編成部隊

「ロコフスキー」軍機下ニ該部隊アリテ主トシテ「ウラ」  
リ出身ノ殺人犯等ヲ含ム(肉迫軍機時特ニ夜襲時「ウラ」



ナル破壊ヲ上ケサル陣線施設トシテ爾軍ヲ悉ラシムルヲ  
又統制術ニ就テ

爾軍ヨリ統制術ハ特ニ夜戦時ニ於テ優秀ナリト自覚セテリ統制  
術ノ型ニ關シテモ逐次日軍ノ型ニ類似シテ來リ時ニ轉ヘ統制術  
左右兩足ヲ直角ニスル如ク教育セラレアルハ注目スヘキナリ

六「ソ」側ノ日本ニ關スル對内宣傳ノ一端

「ソ」側ノ宣傳ニ依レハ日本ハ世界ノ貧乏國ナリト然ルニ兵ノ何  
レモ優秀ナル統制術ヲ各自所有シ資源豊富世界ノ強國ナル「ソ」側  
ニ統制術ヲ有スルモノナシト苦笑セツツ夫ノ如ク其ノ宣傳振リヲ  
供述セリ

- △日本ハ世界ノ貧乏國ニシテ農民ハ米ヲ喰フコトナシ
- △日本人ハ指ヲ以テ食事ヲナレアリ
- △日本側ニ投降セハ地球ヲキリスカスルヘシ
- △獨「ソ」戰終了後ハ日「ソ」兩戰ハ不可避ナリ(兵闘ニハ眞實ノ  
如ク傳ヘテアレアリ)

状況以上ノ如クナルカ本人ノ逃亡原因ニ關シテハ尙研究ノ余地アリ  
テ現ハ僞裝逃亡ナラヌヤトモ觀察セラルルモノ一面本名ノ諱最其他  
リ判断シ或ハ「ソ」側生活力當方ノ想像以上ノモノニシテ加ニ幾分  
トモ本來ノ民族一般ニ直ル反戦的氣分ヨリ意ヲ決シ入滿セルモノナ  
ルヤモ知レヌ畏懼ニ直ル偵察ヲ必要ト認メラルル趣ナリ

右何等調査考査報告ス  
本信筒送付先 大東亞大臣 外務大臣  
哈爾濱總領事

C-0026



極秘

極秘第二四九號

昭和十九年十二月六日

在牡丹江

領事 古原 克正

寫

在滿洲國

特命全權大使 山田 乙三 殿

同一信左記同封(附付) 政務局第三課 文書課

付ス 在「ソ」軍沿海集團ニ關スル件 在「ウ」オロシ「ロフ」沿海集團ノ編成表何等御參考迄別添茲ニ送

因ニ右沿海集團司令部ハ一九四三年末新設セラレ既存ノ第二五軍及第一軍(第一軍司令部ノ所在地ニ關シテハ明確ナル情報ナク疑問視セラレアリタルモ最近「ソ」聯逃亡兵ノ陳述ヲ綜合スルニ第二五軍及第一軍司令部ハ何レモ「ウ」オロシ「ロフ」ニ在

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格35)

S 3.8.0.0-1

128

ルコト確實ニシテ同一建物ヲ使用シアリ「」ヲ指揮統轄シ司令部ニハ元第二五軍司令部「バルシ」ノ「フ」中將昇格就任シアリ 極東正面軍ニハ二ヶ集團アリテ其一ハ沿海集團ニシテ他ノ一ハ北部集團ナリ 北部集團ハ昨夏某情報上戸港ニ出現シアルモ詳細未タ不明ナリ 本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

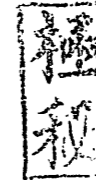
在牡丹江日本領事館

(日本標準規格35)

S 3.8.0.0-1

129





沿海集團編制表

沿海集團司令部  
司令部在「ウオロシ  
ーロフ」  
司令官中將「バルシ  
ーノフ」  
參謀長少將「シヤニ  
ン」

第一軍  
司令部在「ウオロシ  
ーロフ」

第二五軍  
司令部在「ウオロシ  
ーロフ」  
司令官少將「マキシー  
モフ」  
參謀長 少將 某  
軍事委員少將「レベ  
ンコフ」  
政治部長大佐「コロ  
モフ」

狙撃第八八軍團  
一九四三年秋「ウオ  
ロシ」ニ於テ新設セ  
ラル  
司令部在「ウオロシ  
ーロフ」  
軍團長少將「カレト  
ニコフ」  
參謀長 大佐 某  
砲兵部長 砲兵大佐 某

狙撃第一七軍團  
一九四二年末「ボク  
ロフカ」ニ於テ新設  
司令部在「ボク  
ロフカ」  
軍團長少將「カ  
ブチコ」  
參謀長 不 明  
政治部長大佐「クル  
ホフ」

狙撃第二五八師團  
司令部在「ウオロシ  
ーロフ」  
一九四三年九月頃「ラ  
ズドリノエ」ニ於  
テ新編セラル  
一九四四年五月以前  
「ラズドリノエ」ヨ  
リ「ウオロシーロフ」  
ニ移駐ス  
師團長 親衛中佐「シ  
エレンコフ」  
參謀長 大佐 「モ  
ロソフ」  
車戦化第四二(又ハ  
四七)旅團  
在「ウオロシーロフ」  
細部不明ナルモ多  
數自動車ヲ有ス  
但シ戦車、装甲車  
等ハ有セス  
某狙撃師團(又ハ旅  
團)  
位置不明

狙撃第九〇師團  
在「チエルニヤチ  
ノ」一九四二年  
(?)後方地區ヨリ  
「チエルニヤ  
ノ」ニ移駐  
隷下部隊不明

狙撃第二一旅團  
在「コルホフカ」  
一九四二年九月「ウ  
オロシーロフ」ヨ  
リ  
一九四三年八月何  
處ヘカ輸出セル狙  
撃第一二聯隊ニ交  
替トシテ「コ  
ルホフカ」ニ進駐  
セリ  
旅團長 中佐 「バ  
ランチコフ」

第一〇六設堡地區守  
備隊  
司令部「コンスタ  
ンチノフスキー」  
司令官少將「ジエ  
スタコフ」  
第一一設堡地區守  
備隊  
位置 不明

某戰車部隊  
在「ボク  
ロフカ」  
軍總予備砲兵聯隊  
在「ウオロシ  
ーロフ」

「註」第二五軍「ハイサン」地區駐屯隷下部隊一聯シテハ不明ナリ

C-0026

03:5

「地區駐屯隷下部隊」

「聯シテハ不明ナリ」

第一〇六設堡地區守備隊  
司令部「コンスタンチノフスキー」  
司令官少將「ジエスタコフ」  
第一一一設堡地區守備隊  
位置不明  
某戰車部隊  
在「ボクロフカ」  
軍總予備砲兵聯隊  
在「ウオロシイロフ」

獨立MG第三〇大隊  
獨立MG第八〇大隊  
獨立MG第九六大隊  
獨立MG第九八大隊  
獨立砲MG第二一八大隊  
獨立砲MG中隊  
獨立工兵大隊  
速給第一三四(?)大隊  
自動車輸送中隊

狙撃第一七軍團  
九四二年末「ボクロフカ」  
「於テ新設」  
司令部在「ボクロフカ」  
團長少將「カブチコ」  
參謀長 不明  
政治部長大佐「クルホフ」

狙撃第九〇師團  
在「チエルニヤチノ」一九四二年秋  
(?)後方地區ヨリ「チエルニヤチノ」ニ移駐  
隷下部隊不明  
狙撃第二一旅團  
在「コルホフカ」  
一九四二年九月「ウオロシイロフ」ヨリ  
九四三年八月何處ヘカ轉出セル狙撃第一一二聯隊ニ交替トシテ「コルホフカ」ニ進駐セリ  
旅團長 中佐「バラランチコフ」

? 狙撃第一三〇聯隊  
在「イギリチヨフカ」  
狙撃第一大隊  
狙撃第二大隊  
狙撃第三大隊  
對戰車驅逐第一大隊  
自動車輸送中隊

狙撃第八八軍團  
一九四三年秋「ウオロシイロフ」ニ於テ新設セラル  
司令部在「ウオロシイロフ」  
軍團長少將「カレトニコフ」  
參謀長 大佐 某  
砲兵部長 砲兵大佐 某

狙撃第二五八師團  
司令部在「ウオロシイロフ」  
一九四三年九月頃「ラズドリノエ」ニ於テ新編セラル  
一九四四年五月以前「ラズドリノエ」ヨリ「ウオロシイロフ」ニ移駐ス  
師團長 親衛中佐「シエレンコフ」  
參謀長 大佐「モロソフ」  
車載化第四二(又ハ四七)旅團  
在「ウオロシイロフ」  
細部不明ナルモ多數自動車ヲ有ス  
但シ戰車、装甲車等ハ有セズ  
某狙撃師團(又ハ旅團)  
位置不明

狙撃第四〇五聯隊  
聯隊長少佐「チエレボフ」  
在「ウオロシイロフ」  
狙撃第九九聯隊  
在「ウオロシイロフ」  
狙撃某聯隊  
在「ウオロシイロフ」  
砲兵聯隊  
在「ウオロシイロフ」  
搜索中隊  
在「ウオロシイロフ」  
驅逐對戰車砲大隊  
在「ウオロシイロフ」  
連絡大隊  
在「ウオロシイロフ」  
防空中隊  
在「ウオロシイロフ」  
司令部位置不明  
在「ウオロシイロフ」  
工兵中隊  
在「ウオロシイロフ」  
輸送中隊  
在「ウオロシイロフ」  
衛生司令部位置不明  
在「ウオロシイロフ」  
軍樂小隊  
在「ウオロシイロフ」

外務省調査局第二課

寫

秘第二五〇號

昭和十九年十二月七日

在牡丹江

領事

古原京正

在滿洲國

特命全權大使

山

田

乙

三

殿

同一信左記局課へ配付済  
政務局第三課  
文書課

東「ソ」赤軍内ニ於ケル對内宣傳ノ變遷ニ關スル件

本件ニ關シ某機關ヨリ入手シタル情報何等御參考迄別紙寫ノ通茲ニ送付ス

本信寫送付先

外務大臣

大東亞大臣

哈爾濱總領事

在牡丹江日本領事館

昭和二十年一月 六日 接受  
別紙添附

(日本標準規格35)

S 3.8.0.0-1

132

e.g.o.o.R#  
A7004-5

C-0026

03:0

寫

秘

東「ソ」赤軍ノ實施シアル對内宣傳ノ日本ニ關スル變遷  
 一 一九四一年獨「ソ」竝ニ大東亞戰爭開始當初ニ於テハ「日本ハ  
 日獨間ノ條約ニ基キ沿海州ヲ侵略スルノ企圖ヲ有スルヲ以テ嚴  
 警戒ヲ要スル」旨宣傳  
 二 一九四三年末頃ヨリ「元來朝鮮及滿洲ハ獨立スヘキモノニシテ  
 之々日本ノ羈絆ヨリ解放セシムルモノハ「ソ」聯ナリ而シテ沿  
 海州ニ於ケル對米航空基地貸與カ日「ソ」戰ヲ招來セシムルハ必  
 至ナルヲ以テ此レ以前ニ對日先制攻勢作戰ヲ實施スヘキ」旨宣  
 傳  
 三 最近「赤軍ノ偉大ナル物資力即チ航空機甲、砲兵ヲ以テセハ日  
 本軍ノ殲滅ハ容易ナリ」ト宣傳スルト共ニ「山地戰ニ於ケル日  
 本軍ノ輕快神出鬼没ナル行動ハ以テ赤軍ノ範ヲラシムヘキ」旨  
 強調  
 四 大東亞戰爭ノ戰況ニ關シテハ概ネ新聞ニ記載シアル程度ニ發表  
 シ結局米國ノ豐富ナル物資力ニ對シテハ日本ハ敗北ノ餘儀ナキ

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格JIS)

S 3.8.0.0 - 1

133

ニ至ルヘシトナシアリ

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格JIS)

S 3.8.0.0 - 1

134

C-0026

03:8

外務省調査局第二課

極秘

寫

c20.0.17

極秘第二五七號

昭和十九年十二月十五日

在牡丹江  
領事

古屋 京正

同一信左前局へ配付  
政務局 第三課  
文書課

在滿洲國  
特命全權大使 山田 乙三 殿

「ソ」軍航空機並戰車ノ輸送狀況ニ關スル件  
情報ニ據ル管内東正面ニ現レタル「ソ」軍航空機並戰車ノ鐵道輸  
送狀況別紙ノ通茲ニ送付ス  
本齋寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

在牡丹江日本領事館

昭和貳拾年壹月拾七日接  
別紙添附

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0 -1

135

C-0026

03:19

秘

寫

鐵道ニ依ル航空機並戰車ノ輸送狀況  
 一 九月中ニ於ケル飛行機ノ鐵道輸送狀況ハ西(北)行三一機ニ對シ  
 東(南)行一五七機ニシテ依然東兩行大ナリ  
 本年一月以降ノ飛行機輸送(鐵道)狀況次ノ如シ

方 向	月 日	ノ
東 南 行	12	2
西 北 行	10	3
	11	4
	12	5
	1	6
	2	7
	3	8
	4	9
	5	計

一 戰車ノ輸送ハ九月中西(北)行八二輛ニ對シ東(南)行三八輛ニシ  
 テ西(北)行八二輛ハ本年度ノ最高ナリ  
 一 最近戰車ノ輸送ハ西(北)行ニ比シ東(南)行大ナルヲ常態トセル  
 一 九月中ハ逆現象ヲ呈セリ

S 3.8.0.0-1

136

C-0026

0320

外務省調査局第二課

極秘

寫

極秘第二六一號

昭和十九年十二月二十三日

在牡丹江

領事

古

京

正

在滿洲國

任命全權大使 山田之三殿

蘇聯太平洋艦隊ノ編制ニ關スル件

蘇聯太平洋艦隊(含航空部隊)ノ編制ニ關シ次ノ如キ情報アリ勿  
論更ニ檢討ノ餘地不尠ナルモ御參考迄報告ス

一艦艇

巡洋艦 二

驅逐艦 一七

型 二六

(既得某情報ニ依レハ四)

二六)

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

137

昭和十九年一月拾七日

同一信左記局課へ配付済

政務局第三課

文書課

型	二八	(既得某情報ニ依レハ二八)
型	四六	(二六)
型	六	(一)
型不明	一七	

三航空部隊

師團

旅團

聯隊

中隊

一註「本情報ハ本年四月以降ノ調査ニ基クモノナリ  
本信寫送付先 外務大臣 哈爾濱總領事

二

五

二〇

九

二

五

二六

二〇

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0-1

138

C-0026

032

外務省調査局第二課

極秘

寫

8.0.0.XX  
C5.0.0.X3

極秘第二六四號

昭和十九年十二月二十七日

在牡丹江

領事 古屋

在滿洲國

特命全權大使 山田 乙三 殿

「ソ」御艦船ノ動向ニ關スル件

情報ニ據ル十一月中浦潮一ボシエツト一兩近海ニ於ケル「ソ」御艦船ノ動向別紙寫ノ通致ニ送付ス

本信寫送付先 外務大臣 哈德賓總領事

昭和十九年十二月廿六日發受  
別紙添附

信左記周課へ配付  
政務局 第三課  
秘書課

在牡丹江日本領事館

(日本標準規格B5)

S 3.8.0.0 -1 139

C-0026

0322



秘

寫

「浦潮」ボシエツト」兩近海ニ於ケル視察艦艇延數ハ天候不良並ニ氣温ノ低下ニ伴ヒ浦潮近海ハ六六隻(二〇九)「ボシエツト」近海ニ於テハ五一隻(二〇〇)共ニ前年同月ニ比シ激減セルモ浦潮近海ニ於ケル甲巡竝ニ驅逐艦ノ航行依怙トシテ盛ンナリ

二浦潮「ボシエツト」兩近海ニ於ケル視察船延數ハ浦潮近海ニ於テハ二五隻(五一)「ボシエツト」近海ニ於テハ三四隻(八五)共ニ激減セリ

三十一月中千屯級貨物船一隻浦潮港「ボシエツト」港ハ軍需物資ノ輸送ヲナシタルモノノ如ク航海細部左ノ如シ

- 一日 浦潮港「ボシエツト」港ハ 一航海
  - 七日 「ボシエツト」港「浦潮港」ハ 一航海
  - 一六日 浦潮港「ボシエツト」港ハ 一航海
  - 三〇日 「ボシエツト」港「浦潮港」ハ 一航海
- 四艦艇ニ依ル特異ナル演習訓練ハ認メサルモ十一月三日「ウレンチ」沖合ニ於テ海陸聯合演習ヲ實施セリ

五浦潮及「ボシエツト」近海ニ於ケル艦船視察延數附表ノ如シ

一註「( )」ハ昭和十八年十一月視察延數ナリ

C-0026

0323

附表

合計	小計	ボシエツト地区			浦潮地区			
		船名	隻数	吨数	船名	隻数	吨数	
八五(三八五)	第一旬	潜水艦	七(二)		甲 潜水艦	七(二)	八〇〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	八〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	一〇〇〇	
	第二旬	潜水艦	七(二)		甲 潜水艦	七(二)	八〇〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	八〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	一〇〇〇	
	第三旬	潜水艦	七(二)		甲 潜水艦	七(二)	八〇〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	八〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	一〇〇〇	
	六六(二〇九)	第一旬	潜水艦	七(二)		甲 潜水艦	七(二)	八〇〇〇
			潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	八〇〇
			潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	一〇〇〇
第二旬		潜水艦	七(二)		甲 潜水艦	七(二)	八〇〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	八〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	一〇〇〇	
第三旬	潜水艦	七(二)		甲 潜水艦	七(二)	八〇〇〇		
	潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	八〇〇		
	潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	一〇〇〇		
九一(二六〇)	第一旬	潜水艦	七(二)		甲 潜水艦	七(二)	八〇〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	八〇〇	
		潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	一〇〇〇	
第二旬	潜水艦	七(二)		甲 潜水艦	七(二)	八〇〇〇		
	潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	八〇〇		
	潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	一〇〇〇		
第三旬	潜水艦	七(二)		甲 潜水艦	七(二)	八〇〇〇		
	潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	八〇〇		
	潜水艦	二(二)		潜水艦	二(二)	一〇〇〇		

註 ( ) 同時最大觀察数  
 ( ) 昭和十八年十二月觀察數計

調査局第三課

極秘第一號

昭和二十年二月八日

在 兼 河

領事代理 三井 義



政務局長 第三課

昭和二十年 二月 八日 領事代理 三井 義 別紙添付

極秘

外務大臣 重 光 葵 殿

「ソ」聯ノ動靜調査ニ關スル件

本件ニ關シ昭和十九年二月二十二日附調ニ極秘第二號ヲ以テ御訓達ノ趣敬承仍テ十、十一、十二、三ヶ月分取纏メ別添ノ通報告申進ス本信寫送付先 在滿大使、哈爾濱總領事

在黒河日本帝國領事館

S 3.8.0.0-1

143

一、蘇聯ノ諜報活動ノ増減 (自十月一日至十二月三十一日)

本期ニ於ケル蘇側ノ諜報活動ニ大ナル變化ナキモ全般的ニハ稍低調ニシテ特ニ酷烈ナル氣象ノ影響ニ依リ武裝諜者ノ活動激減セリ而シテ其ノ半面ニ於テハ國內物資ノ窮迫益々深刻化シ來リ浮遊勞働者層ノ生活不安、並ニ不平、不満増大シ主トシテ之カ原因ラナシ上流漢河、鷓浦方面ニ於ケル伐採勞働者ラ主トスル住民ノ越境入蘇事件頻發シツツアリ斯ノ如キハ康徳七年以來曾テ無キトコロニシテ入蘇者ハ何レモ對滿諜者トシテ使用セラレツツノル狀況ニシテ之カ防止對策ハ當省當面ノ急務ニシテ之カ對策ニ腐心シツツアル實情ナリ

以下本期ニ於ケル狀況ヲ列記スレハ左ノ如シ

武裝諜者ノ活動狀況  
本期中管内ニ出現セル武裝諜者ハ六件八名ニシテ夏季ニ比シ激減シアリ

特ニ本年六月以來熾烈ニ極メタリシ蒙平縣張地營子方面ニ於ケル武裝諜者ノ活動ハ十月以來殆ント中止シアルハ其ノ變化ノ著シキモノニシテ鷓浦、呼瑪方面ニ若干出現セルモノハ住民ノ拉致ヲ主目標トスル現地國境警備隊ノ工作ト思料セラレ諜報的ニハ極メテ

在黒河日本帝國領事館

S 3.8.0.0-1

144

C-0026

0325

程度低ク全般的ニ見テ本期ニ於ケル武謀ノ活動ハ殆ント休止ノ状  
況ナリ

2. 其他諜者ノ活動  
 隱密ナル諜者ノ諜報活動ハ之ヲ逮捕シ抑留シタルモノニ付推定ス  
 ルノ他ナク期間ヲ區切リテハ之ヲ表現シ得ス且我方偵諜網ノ視野  
 ニ入ラサルモノ多カルヘキヲ以テ之カ真相把握困難ナルモ本期中  
 ニ抑留セル外諜七名及其他ノ諸事象ニ依リ之ヲ推察スルニ及  
 孫吳、嫩江方面ニ或スル軍情並ニ軍事施設ノ狀況調査並ニ各地住  
 民ニ對スル入駐誘引及親蘇、反日滿觀念ヲ誘起セシムヘキ  
 宣傳ヲ主トシテ實施シアル如シ

唯此處ニ注目スヘキハ蘇聯ノ宗教政策ノ轉換ヲ巧ニ利用シ蘇側  
 キリシヤ一正教牧師ヲ使用シテ滿側教會ニ策動ヲ試ミツツ  
 トニシテ當然豫想セララルコトアリト雖之カ對策ヲ早急ニ實施ス  
 ル必要アルトコロナリ

3. 入駐者ノ激増  
 本期中ニ於ケル入駐者ハ漠河、圖浦兩縣下ニ於ケル木材伐採勞働  
 者ヲ主トシテ三十五件、五十九名ニ上リタリ之カ原因ハ主トシテ物  
 資窮迫ニ伴フ生活不安、不平、不満ニ基クモノナルハ入駐者ノ大

在黒河日本帝國領事館

部カ生活ノ根柢ヲ有セサル存遊勞働者ナル事實ニ於テモ明瞭ナル  
 モ一面ニ於テ蘇側ノナス入駐誘引、宣傳カ直接ニ又間接ニ之等生  
 活不安ノ勞働者層ニ滲透シツツアルカ爲ナルハ否定シ難キモノ  
 リ、之カ防止ハ當省防諜上最大ノ責務トスルトコロナルモ事ハ國  
 内情勢ニ懸ルモノ大ナルヲ以テ根本的對策ノ實施困難ナルトコロ  
 ナリ

4. 越境入駐者ノ状況  
 本期中ニ名ニシテ内一名ハ諜者ニシテ他ノ二名モ偽裝逃亡ナル容  
 疑濃厚ニシテ最近眞ノ逃亡者ハ跡ヲ絶チアルニ非ラスヤト推定セ  
 ラルトコロナリ

二、國境事件ニ對スル蘇側ノ態度  
 結氷期ニ入りテヨリ發生セル國境事件ハ  
 1. 我方ヨリ入駐事件ニ五件、五九名、内鮮系十一名(鮮系ノ多數ヲ  
 占ムルハ注目ヲ要ス)

2. 蘇聯入ノ越境入駐三件、三名

3. 蘇聯機ノ越境二件、二機

ノミニシテ蘇側トノ間ニ紛争其他交渉事案發生シテラス特記スヘキ  
 モノナシ

在黒河日本帝國領事館

C-0026

0326

唯一般的ニ見テ蘇俄軍官民ノ我方任民ニ對スル態度ハ戦局ノ好調ニ  
氣勢昂リ我方ヲ輕視シ動々トモスレハ威嚇スル如キ空氣アルヤニ觀  
察セラレ  
（但シ結氷以來具體的ニ之ヲ證スヘキ顯著ナル事案ナシ）

在黑河日本帝國領事館

S 3.8.0.0-1

147

C-0026

0327

註・右ノ内蘇聯人五名、不詳六名、他ハ漢人	合計	烏雲	遜克	呼瑪	圖浦	漠河	嫩江	孫吳	瑛	縣別		武裝謀者出現状況表 (昭和十九年度)
										別	月	
	(九)	(四)	(三)	—	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	(一)	一五	一月
	(一)	—	—	—	—	—	—	—	—	(一)	二	二月
	(四)	(二)	(一)	—	—	—	—	—	—	(二)	三	三月
	(四)	(五)	(四)	(一)	(一)	—	—	—	—	(七)	三	四月
	(四)	(五)	(四)	(一)	(六)	(三)	(一)	—	—	(五)	二	五月
	(一)	(一)	(一)	(四)	(二)	(二)	(一)	—	—	(五)	二	六月
	(三)	(一)	—	—	—	—	—	—	—	(三)	二	七月
	(四)	(七)	—	(一)	(一)	(七)	(三)	—	—	(四)	三	八月
	(一)	(一)	—	(一)	(一)	—	—	—	—	(一)	一	九月
	(一)	(一)	—	—	—	(一)	(一)	—	—	(一)	一	十月
	(三)	(二)	—	(一)	(一)	—	—	—	—	(三)	二	十一月
	(四)	(一)	—	(一)	—	—	—	—	—	(一)	一	十二月
	(四)	(一)	—	(一)	—	—	—	—	—	(一)	一	計
	(四)	(四)	(三)	(一)	(一)	(四)	(一)	(一)	(一)	(一)	二	計

在黒河日本帝國領事館

註・右ノ内蘇聯人五名、不詳六名、他ハ漢人	合計	烏雲	遜克	呼瑪	圖浦	漠河	嫩江	孫吳	瑛	地方別		武裝謀者速捕抑留状況
										別	月	
	(二)	—	—	—	—	—	—	—	—	(一)	一	一月
	(四)	—	—	—	—	—	—	—	—	(一)	一	二月
	(四)	—	—	—	—	—	—	—	—	(三)	一	三月
	(一)	(六)	—	—	—	—	(三)	—	—	(一)	一	四月
	(一)	—	—	—	—	—	—	(一)	—	—	—	五月
	(二)	—	—	—	—	—	—	—	—	(二)	—	六月
	(一)	—	—	—	—	—	—	—	—	(一)	—	七月
	(六)	—	—	—	—	—	—	(二)	—	(四)	—	八月
	(一)	—	—	—	—	—	—	—	—	(一)	—	九月
	(一)	—	—	—	—	—	—	—	—	(一)	—	十月
	(六)	—	—	—	—	—	—	—	—	(四)	—	十一月
	(一)	—	—	—	—	—	—	—	—	(一)	—	十二月
	(六)	(一)	—	—	—	—	(二)	—	—	(四)	—	計
	(二)	(六)	—	—	—	—	(四)	(三)	(三)	(一)	(七)	計

在黒河日本帝國領事館

C-0026

0328

合計	烏雲	遜兒	呼瑪	圖浦	淚河	嫩江	林吳	瑛瑯	縣別	
									別	月
一六〇	四二				五三			七五	一月	二月
二一六	三二		六三	三三	五九			八四	三月	四月
二二三	九四	一一	八二	五二	二二			三二	五月	六月
一四四			六三		一一			七一	七月	八月
三二				二一				一一	九月	十月
八三	四一			三一	一一			一一	十一月	十二月
五三			二一		二一			一一	計	備
二二					二二			一一	考	
一六	七		二一	三二	二四			一一		
四二	二七		二二	一八	一九			一一		
二五	八四	一五	六一	二六	三四	四八	三〇	二八		
三	五							一八		

入蘇事件状況表

在黑河日本帝國領事館

「アラビヤ」  
字ハ件數

合計	烏雲	遜兒	呼瑪	圖浦	淚河	嫩江	林吳	瑛瑯	縣別	
									別	月
二								二	一月	二月
四			二					一	三月	四月
(-)四				三				(-)一	五月	六月
(-)一					(-)一				七月	八月
									九月	十月
(-)二					(-)一				十一月	十二月
									計	備
(-)一								(-)一	考	
一六	一	二	三	(-)三				(-)七		

不正越境入滿蘇聯人状況表 (昭和十九年度)

(一) 内ハ其内外謀  
ト判明セルモノ  
(含偽裝逃亡  
武裝外謀)

在黑河日本帝國領事館

註・右ノ内ノ側ニ標着セル後夫ノ被拉致ヲ言ム(概不歸滿ス)	合計	烏雲	遜兒	呼瑪	歸浦	漢河	嫩江	孫天	安琿	縣月別	
										別	月
	(一)	(一)		(一)						一月	二
										二月	
									(一)	三月	二
										四月	
										五月	
										六月	一
										七月	
										八月	
										九月	
										十月	
										十一月	
										十二月	
										計	二
										備考	
										員數	
										内ハ	
										ハ件數	

被拉致事件状況表

在黑河日本帝國領事館

註・右ノ内ノ側ニ標着セル後夫ノ被拉致ヲ言ム(概不歸滿ス)	合計	烏雲	遜兒	呼瑪	歸浦	漢河	嫩江	孫天	安琿	縣月別	
										別	月
	(一)									一月	二
										二月	
										三月	
										四月	
										五月	
										六月	
										七月	
										八月	
										九月	
										十月	
										十一月	
										十二月	
										計	二
										備考	
										員數	
										内ハ	
										ハ件數	

國境侵犯事件状況表

在黑河日本帝國領事館

C-0026

0330



備考 シ彼何 香レ ナモ	備 考	合 計	烏 雲	遜 克	呼 瑪	歸 浦	誤 河	嫩 江	採 吳	汲 輝	月別												
											一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	
		二		一							一												
		一			一																		
		三						三															
		六		一	一			三			一												計

不法射撃事件状況表

在黑河日本帝國領事館

C-0026

033:

一、黒河省正面同地駐脚兵力ノ増減及移動状況

第五五、七四國境警備隊ハ一部兵力ノ交替ヲ實施セルモノノ如シ

(イ)十一月十三日騎馬兵三九名徒歩兵二四名「ボクロフスキー」出發

(ロ)十一月十四日「ジャヤーリンドン」一驛着列車ヨリ各自小荷物ヲ携行セ

ル國境警備兵二名警備隊本部ニ「入ル」移動ス

(ハ)十一月二十日「イグアシーナ」ヨリ騎馬兵三九名「ジャヤーリンドン」

「方向」ニ移動ス

(ニ)十二月十日「セルゲイフカ」方面ヨリ警備兵二〇名「ビビコフス

キー」ニ移動シ來タリ第一兵舎ニ入

二、第五五、七八、七五國境警備隊ニ初年兵入隊セリ

(イ)十二月二十八日「クマールスカヤ」背後地「サスカリー」方面ヨ

自動貨車四台ニ分乗セル國境警備兵一二五名同二十日自動貨車

六台ニ分乗セル警備兵一八〇名計二一五名移動シ來リ第七八國境

警備隊ニ入隊ノ如ク認メフル

(ロ)十二月二十日同三十一日ノ兩日ニ且リ烏雲縣管下向地「アルハラ」

方面ヨリ自動貨車一四台ニ分乗セル國境警備兵約二五〇名移動シ

來リ「インノケンチエフスカヤ」第七五國境警備隊ニ入隊セルモ

ノノ如ク認メフル

在黒河日本帝國領事館

該警備兵ノ着用被服バ普通中古品ノ如ク何等特徴ヲ認メス

尙携行品ハ「トフンク」及風呂敷包ノ外兵器ヲ携行セザル點ヨリ初

年兵ノ入隊ナルモノノ如ク爾後ノ教育訓練ハ不助姿勢、速歩行進、

執銃各個教練、銃劍術ノ極メテ初歩的基本訓練ヲ實施シアリ

(イ)十二月二十八日「ボンタレンコ」方面ヨリ自動貨車四台ニ約一三

〇名分乗シ來リ「スタロ」第三兵舎ニ入ル

(ニ)十二月二十九日「ボンタレンコ」方面ヨリ自動貨車六台ニ一七〇

名分乗シ「スタロ」第三兵舎ニ到着ス

右様移動兵力ノ服裝ハ徒手防寒具ヲ着用ス

黒河省正面「ソ」車動向

當省止面「ソ」車ハ結水期到來ニ伴フ國境警備ヲ益々至嚴化スルト共

ニ地上部隊ノ教育訓練極メテ活潑化セリ

機甲部隊ノ現出ト思料セララル装備兵器ノ出現並ニ武市上下流ヲ中心

トシ全般的情況ヲ呈シアリ

人警備及配兵

(イ)十一月二十七日「安東縣大五家子對岸」ニ於テ狙撃第五七聯隊第二大

隊ノ一部(陣地守備兵)二〇九名陣地攻撃演習ヲ實施ス

(ロ)十二月三十日「コウシカ」ヨリ大隊砲二門ヲ有スル兵一五〇名

在黒河日本帝國領事館

C-0026

0332

「クリユウチ」ラ經テ「コンスタン」ノ「スキー」ニ到着「コンスタン」ヨリ野砲八門ヲ有スル兵約二〇〇名「コンスタン」西北方約二軒地點ニ於テ射撃演習ヲ實施ス

(イ) 十一月二日朝ヨリ同二日ニ至ル間ニ且リ「コウリッカ」背後地ニ於テ四〇〇名乃至五〇〇名ノ兵力ヲ以テ爆破演習ヲ實施ス

(ニ) 十二月十六日丁時ヨリ「ノイワヤ」亦軍兵舎ヨリ「スキー」兵約二〇〇名「ホントレン」街道附近林中ニ没ス

丁時二十分「ホントレン」亦軍兵舎ヨリ兵四〇名ハ砲六台ニ「マキシム」曹重機各一ヲ塔載シ部隊ニ合演習ヲ實施ス

在黒河日本帝國領事館

C-0026

0333

外務省

昭和十三年

復活

各国ニ於テ防諜關係雜件

C  
8  
0  
0  
X6

昭和十三年八月  
至  
年  
月  
日  
復活

各国ニ於テ防諜關係雜件

第

卷

C-0026

0334